

# 2020 年度事業報告

# 2020年度 社会福祉法人多摩福祉会事業報告

## 1. 法人経営

### 1) 評議員会、理事会、監事

- ・ 評議員会を2回行い、予算決算、事業計画、事業報告等を審議決定した。いずれもweb会議で行った。
- ・ 理事会は5回開催し、事業報告事業計画、予算決算、補正予算の審議決定、諸規程の改廃を行った。いずれもweb会議で行った。
- ・ 監事は、法人全体の日常運営経営と保育内容に関して定期監査を実施した。

### 2) 法人事業計画

- ・ 50周年記念事業を核とした10年間の中期法人事業計画を策定した。杉並区上井草区有地保育園設置公募に応募し第一次審査は通過したが、第二次審査で当法人提案は採用されるに至らなかった。
- ・ 法人50周年に向けた法人50周年誌作成は、コロナ禍で年度末までに再開するに至らなかった。

## 2. 法人運営

### 1) 経営会議の定期的開催

- ・ 経営会議を設置して8年、法人本部を設置して7年が経った。2020年度は14回の経営会議を行い、保育情勢、人事採用・人事異動、処遇改善、予算決算、事業計画、研修事業等の審議決定を行い、理事会提案議題を決定した。日常的な法人運営の意思決定を行うことができた。
- ・ 新型コロナウイルス感染防止対策のため、2020年度は概ねweb会議で行った。職員等の感染対応ガイドライン、在宅勤務ガイドラインなどの対応策を審議し決定及び改定した。

### 2) 施設長人事、施設長会議

- ・ 貝取小学童クラブの新規受託、その他拠点の施設長退任、異動等によって、2020年4月に6拠点の施設長が交替した。6拠点ともにスムーズに新体制移行することができた。
- ・ 施設長会は、各自治体の保育情勢の交換、各施設運営の問題共有と意見交換を行い、施設運営の改善に反映できたが、コロナ禍のため行うことのできない月もあった。

### 3) 事務局会議・本部体制

- ・ 経営会議議題整理のための事務局会議を18回行った。経営会議を軸とした法人運営責任を明確にするため、事務局会議の役割の縮小整理を経営会議で確認した。
- ・ 法人本部は、職務を明確にした正職員3名と有期契約職員1名体制で安定的に運営することができた。

### 4) 法人内各種会議・委員会・部会

- ・ 事務担当者会議  
事務処理について意見交換を行い、いくつかの事務運営に関する規程改訂を提案することができた。
- ・ 研修委員会  
法人合研、中堅研修をwebで行った。2019年度末に行うべき新人研修を2020年6月にwebで行った。
- ・ 給食部会  
行うことができなかった。
- ・ 保健部会  
web会議を行った。
- ・ 広報委員会  
法人ニュース「たまふく」を3回、発行することができた。
- ・ リクルート委員会  
定期的に会議を行い、オンライン就職説明会等様々なリクルート活動を行った。

### 5) 職員採用・人事異動

- ・ SNS や駅貼り広告、職員呼びかけカード活用など新たなリクルート活動に取り組み、概ね予定通り職員採用をすることができた。また、新たにオンライン就職説明会、オンライン就職面接を行った。オンライン就職説明会の様子は全国会議で紹介され、全国から問い合わせがあった。
- ・ 2020年度は積極的な拠点間職員人事異動は行わなかった。

### 6) 職員処遇

新型コロナウイルス感染防止対応に伴う在宅勤務ガイドラインなどの処遇改善を進めたほか、全拠点の労働時間統一と健康管理休暇制度導入について労働者側と合意に向けて協議を進めた。処遇改善については、昨年度同様の改善を継続している。

### **3. 法人財務**

#### **1) 各拠点の財務分析・財務計画**

コロナ禍による利用者減、休園などがあったものの、賃金保障部分の公費助成が継続されたため大きな減収とならず安定的な経営ができた。今後、利用者減による減収も予想されるので、2021年度に各拠点の財務評価作業を行う方向を確認されている。

#### **2) 施設整備**

法人事業計画のとおり。50周年新規事業の情報を得るよう努めた。

### **4. その他の取り組み**

#### **1) 民主的社会福祉法人全国組織結成準備会参画**

結成に協力してきた社団法人権利を守る社会福祉法人全国会議（全国会議）が2020年5月に結成され、当法人も加盟した。理事長が全国会議理事に就任した。

#### **2) 他団体への役員派遣、学会などでの発表**

日本学童保育学会（代表理事）、総合社会福祉研究所（理事）、全国保育団体連絡会（副会長）、全国保育経営研究懇話会（副会長）、幼年教育研究協議会（会長）など諸団体で法人職員が任務を果たしている。

#### **3) 他法人研修協力、他法人への情報提供**

- ・ 他社会福祉法人職員（1名）の法人本部研修を実施した。
- ・ 就業規則、賃金規程、リクルート方法、研修内容など法人規程、業務について10件ほど他法人から照会があった。

## 2020年度 こぐま保育園事業報告

### 1. 事業実施状況

(1) 認可定員及び入所状況

1) 新規入所

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211
運用定員	21	35	38	39	39	39	211
新規入園	21	14	6	5	2	0	48
管外	2	0	1	1		1	5

2) 途中退園児

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
途中退園	4	3	7	3	4	0	21

3) 途中入園児

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	児童数
5月							207
6月	1		1		1		209
7月	1	1	1				209
8月				1			210
9月			1				210
10月			1	1	1		210
11月				1			209
12月							208
1月			1	1			210
2月							209
3月							209
合計	2	1	5	4	2		

- (2) 保育年齢 産休明け～就学前  
 (3) 保育時間 7：00～19：00  
 (4) 延長保育 1時間延長（18：00～19：00）  
 利用登録数 51名

- (5) 1～5歳児の異年齢保育
- (6) 障害児保育 多摩市増配置加算申請 9名  
発達要観察 20名（関係機関連携18名）
- (7) アレルギー食対応数 配慮児童 10名
- (8) 地域活動事業  
体験保育 10名  
産前産後育児体験 7名  
小中学生育児体験 中学校側から中止。夏のボランティア多摩市中止。  
高校生 インターン1件  
実習生受け入れ 10人を予定したが園が休園となり3名中止
- (9) 多摩市特別保育事業  
一時・定期利用保育事業
  - ① 利用定員 定期利用保育定員 4名 一時保育1日2名程度
  - ② 利用人数 一時保育 延べ149名利用
  - ③ 保育職員体制 常勤 1名、非常勤職員 1名
- (10) 自主地域活動事業（あそぼうかい…週2回、育児講座、世代間交流）  
あそぼうかい 延べ利用人数 1.2歳児 38名、0歳児 57名  
世代間交流 コロナ対策のため中止

## 2. 児童状況

### ① きょうだい関係

にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり
7世帯	8世帯	9世帯	5世帯	9世帯	8世帯

- ② 育児困難・配慮家庭 12家庭（関係機関連携 12家庭 14名）
- ③ 障害児 1名
- ④ 発達観察要配慮児童 19名（18名専門機関と連携あり）
- ⑤ アレルギー対応児 10名

## 3. 職員状況

- (1) 正職員(在籍) 48名  
内訳 正職員 47名、再雇用職員 1名、育休4名（4月で終了3名）。

① 正職員配置状況 (2020年4月1日現在)

園長	副園長	主任	保育士	事務長	看護師	栄養士	調理員	丸早専任	育休	合計
1	1	1	33	1	1	4	1	1	4	48
			にじ主任 1			給食主任 1				

- ② 新規採用者 4名 (保育士3名、看護師1名)  
 ③ 産休・育休取得者 5名 (うち3名緊急事態宣言により4月まで取得5月1日復帰)  
 ④ 病休取得 4名  
 ⑤ 育休復帰者 3名  
 ⑥ 育児時間短縮勤務 2名  
 ⑦ 異動職員 他施設より1名  
 ⑧ 退職者 保育士2名 (2021年3月末日)

(2) 有期契約職員

① 有期契約職員配置状況 (2020年4月現在)

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	ちいくま	環境衛生	事務室	合計
人員	5	4	4	2	6	4	5	1	3	1	35
週5	1	3	2	2	5	2		1	2	1	19
週4	1	1			1		3				6
週3	3		2			2	2				9
週2											0
土曜									1		1

- 4月入職 3名、年度途中入職12名。  
 退職 10名 (うち3名2021年3月末退職)

(3) 嘱託医 3名

- ① 小児科医 1名 (高瀬 真人 日本医科大学永山病院小児科医局長)  
 ② 産業医 1名 (八巻 こずえ 桜ヶ丘記念病院)  
 ③ 歯科医 1名 (三上 直一郎 三上歯科医院 医師)

(4) 講師

- ① わらべうた 勝俣希子 (コロナ対策により 12月より職員研修実施)

#### 4. 協力関係機関との連携

- (1) 島田療育センター巡回指導 →コロナ対策で実施見合わせ
- (2) 発達支援室巡回・教育センター →就学相談 3件
- (3) 市・子育て世代包括センター連携 3件、子ども家庭支援センターへの相談→12件
- (4) 都保健所保健指導、児童相談所発達相談等の援助・協力 →3件
- (5) 産業医との連携 月ごとの安全衛生委員会開催と報告・相談と職員面談、ストレスチェック実施

#### 5. 新型コロナウイルス感染症対策報告

	職員	児童	職員家族	父母・児童家族
休園状況	職員 1 名児童 2 名の同時期感染により 21 年 2 月 13 日～27 日			
登園自粛 (多摩市)	4 月 8 日～6 月末	40 名前後登園		
検査状況	2 月休園時集団検査 ・1 回目 7 名 ・2 回目 44 名 ・その他 6 名	2 月集団検査時 ・1 回目 23 名 ・2 回目 29 名	8 名	11 名
陽性者数	1 名	休園時 1 回目 2 名	2 名	5 名

4 月緊急事態宣言時より玄関外での受け入れ開始。縮小保育（異年齢 3 単位）6 月末まで。法人のガイドライン整備とともに、感染またはそれにそなえ、その都度法人対策本部設置し対策を判断してきました。また休園に備え職員の出勤順位表など作成、在宅勤務の内容の整理、連絡体制の整備を行ってきました。行事その他の取り組みは以下の重点取り組みに記載。

#### 6. 重点課題に対する取り組み

2020 年度は初めから終わりまで新型コロナウイルスと対峙する保育となりました。父母や地域の方がたの多大なご協力に支えられた 1 年でしたが、2 月に職員 1 名と児童 2 名の感染が明らかとなり、2 週間の休園措置となり、うち 4 日間は完全に保育園機能を停止することとなりました。また、いろいろな歴史ある取り組みを中止せざるをえませんでした。



た。しかし保育の中で子どもたちのやりたい気持ちを大切に引き出しながら、クラスで相談してプチイベントを実現させてきたことが子どもの育ちを支え、職員も子どもの主体性を引き出すということを学び実践することができました。

(1) 職員一人一人が主体性を発揮できる運営を発展させます。

① 職員が自分の可能性を見出し、生き活きと働きがいのある職場づくりをめざします。夫々の個性を認め合い、自信をもって仕事に向かえる職場にしていきたいと思います。

② 働く環境をととのえ、働きやすい職場づくりを行います。

2017年度より3ヵ年計画で検討してきた結果をふまえ、法人各事業所との労働時間の統一化を図るとともに、育児のための時間短縮者、それを支える現場ともに働きやすい条件整備をしていきます。

また、結婚、出産と重なる時期をむかえる職員層が増え、産休・育休取得希望者が多くなっています。保育士確保が難しいなか人材を少し潤沢に採用し、安定した運営を目指します。

▶ 育児のための1時間短縮勤務を2名が実施しました。クラスの体制上取得できない日がありながらも、1年通して実施することができ、育児と仕事の両立させることができました。また、5月に職1名が病休に入り、その後産休・育休取得により年間おとして取得することになったためフリー職員をそのクラスへ1年通して配属しました。

労働時間統一という意味では労働者側と一致することができなかつたため、年度末に、こぐま保育園以外の施設の職員に労働時間差分の手当を発生させることになりました。

③ 長くこぐま保育園に勤務した園長が退職し交替となります。また新入職員4名を迎え、職員集団作りを重点に置きつつ、保育内容、子ども状況、父母状況、職員状況等の情報の共有を行い、職員みんなで考えあっているよう努力します。主任層も今後交替しながら運営していくことが必要となっています。複数の中堅層が主任を経験することで安定的な園運営を目指します。

▶ 未知のウイルスとの闘いの中では、情報をキャッチした幹部が伝え、事務室会議で検討し、現場におろすことが多くありました。主任が現場感覚を大いに発揮し保育の中での対策を検討していく段階で力を発揮しました。

毎日の昼礼で情報共有を行い、保健と園長が変わった中でも幹部が共通の目標に向かって仕事をすることができました。副園長1名の配置でしたが、事務室所属の主任にも外部と接触する事務的な仕事を分担し、副園長は園全体の管理運営と法人の仕事にも力を出しました。4月に入ってすぐに自粛保育となり、園長が父母や子どもと接する機会を逃したことが痛手でした。配慮家庭については、副園長の昨年度の積み重ねを

園長と共有し、専門機関と連携して各クラスを中心に家庭配慮を行うことができました。保育内容についてもコロナ渦のなかでも、職員が子どもたちのために主体的に考えて保育を創造できるよう各クラスの援助や課題把握を行うことができました。

(2) 子どもの主体性、自主性が発揮できる保育を発展させます。

- ① 保育をめぐる情勢の変化で、見通しを持った運営が厳しい状況ですが、こういう時だからこそ、子ども像を明確にして“こんな保育がしたい”“厳しいけれどピンチをチャンスに” という前向きな姿勢で、情勢を分析して保育に向かいあえるよう深めあいをしていきます。

- ▶ コロナ対応が必要となり普段と違う保育になりましたが、一人一人の職員が総括時に感じていることを文章化し、考えていることを互いに共有することができ、そこから職員の相互の理解につながりました。他の職員やクラスから刺激を受け、また意見を表明することが難しい職員については、主任が意識的にかかわってクラス運営の課題として取り組めるよう援助しました。

みんなでじっくり考え検討していく時間が少なくなりましたが、子どもにとって職員にとって、感染を広げないという目標のもとに一致して取り組みました。秋になりウイルスの特性や感染予防対策がわかってきたころより、クラスでのプチイベントや年長の当番活動、米とぎなどを子どもたちと相談しながら取り組みました。

- ② こぐま保育園は何故異年齢保育に移行したのか1900年代の子どもや父母・職員の姿、社会状況等の学び、それを通して今の保育を深めることにつながっていくようにできれば良いと考えます。異年齢保育の実践の歴史や現在の状況把握を共有し合い、課題を明確にした深めあいをしていきます。同時に背伸びをせず今の自分たちにできる保育をしていくなかで、保育士からの発信や創意・工夫が生まれ、自分たちでつくる異年齢保育を大事にしていきます。

- ▶ 総括の時に異年齢保育だけでなく、その時々々の課題に対し、歴史的にはどう検討されてきたかについて45年史を使って園長が話す機会を持ちました。園長も知らない時代にさかのぼって開園当初の実践やなぜそう実践したのか？どうして変更したのかについて子どもや父母の姿をどう分析して取り組んできたのかについて話すことに取り組みました。今ある保育内容は父母や子どもの実態に応じて変遷してきたもので、歴史の上に立って内容検討をしていく必要性を職員に伝えることができました。

(3) 父母と共に子育てを考え、互いに力を出し合う運営を発展させます。

- ① 子どもたちにどんな力を培っていききたいのか、懇談会に学習も加えながら、共に深めていきます。
- ② こうなってほしい、こういう力をつけて欲しいという父母の願いを共有しな

がら異年齢保育で育ち合う姿、ついていく力をわかりやすく伝えていきます。  
職員も父母との伝え合いを通して成長できるようにします。

- ▶ 今年度は「保育園が継続しているだけでありがたい」という受け止めの父母が大半という状況でした。集まることがままならず、懇談会は合宿にむけての5歳児懇談会をようやく9月初めにもち、1回目のクラス懇談会は11月に行いました。送迎時も父母と担任がゆっくり話すことはできず、今まで子どもの姿を共有し、喜びや苦しみを共有してきたことの大切さを強く感じた1年でした。ふだんは年度末には子どもたちの成長について共有する懇談会を行っていたのですが、今年度は普段通りできない分、各クラスで創意工夫して書面や映像を使って成長を伝えるとりくみを持ち、父母からは「久しぶりにゆっくり話せてよかった」という感想を多くいただきました。

父母の運営取り組みでは、集まって交流ができないことで、新入家庭の子どもや父母の顔がわからない、知り合いになれないのではないかと、家族写真などを食堂に飾ったり、クラスの子どもの集合写真をパウチにして配るなどの取り組みがあり、脈々と引き継がれてきた共同が感じられました。

5歳児父母からは子どもたちがクラスでプチイベントを楽しむ姿を見て、自分たちも5歳児の親としての取り組みを少しでも味わいたいという意見が出され、工夫して交流会をするなどのとりくみを自発的に行うクラスもあり、父母の持つ力を感じました。

コロナ対策における父母の協力は多大なものがありました。玄関での手洗いをはじめ、保育園に長くいないようにというよびかけにも協力してくださいました。4.5月は玄関外での、受け入れ受け渡しを行い、6月からは父母は保育室に入らないようにし、食堂での荷物のやり取りを6月から1年通して行いました。

職員が感染疑いのため、検査を受けることになった時は、情報を早めに全家庭に伝え、父母のなかで職業柄出勤検討が必要な場合に対応できるようにしました。それにより職場からの指示で出勤取りやめとなるケースも何件かありました。その積み重ねにより保護者の感染疑いのケースの時にも、個人が特定できないような出し方で情報を出すことができました。感染についての不安や仕事への影響がある家庭も多かったと思いますが、父母からたくさんの励ましをいただき、信頼関係の発展につながっていることを感じました。

(4) 地域の人々にとっての福祉環境の発展にさらに貢献します。

- ① 自主子育てひろば事業、一時保育事業、永山学童クラブや児童館との連携を密にして永山地域一帯を子どもたちが生活しやすい地域にすることをめざします。高齢者の参加、小学校から高校生までの居場所づくりも視野にいたした連携も目指します。
- ② 一時保育・定期利用保育事業を発展させます。  
“ちいくま”もすっかり園に定着し、在園児との交流保育も行ってきました。異

年齢のおうちに遊びに行く実践を積み重ねて来ましたが、さらに充実・発展させます。

③ 学童3施設との交流、保育内容の充実、連携を深めていきます。

- ▶ 地域事業はコロナ渦のなかでも緊急事態宣言が出ていない時期に、予約制・少人数で行いました。定期利用保育は例年通りの利用でしたが、一時保育は、宣言中は利用自粛を促す状況となり、利用数も普段の半分以下でした。

学童との交流はコロナ対策により見合わせました。

## 7. 職員研修実施状況

### (1) 園内研修

- |           |                            |
|-----------|----------------------------|
| ① 全員研修    | 応急救護（アレルギー、誤飲、痙攣、心肺蘇生）、    |
| ② 講師による研修 | わらべうたは12月より実践を映像にとり検討を行った。 |
| ③ 新人研修    | 年度初めに保健関係、乳児保育研修、離乳食研修     |
| ④ 研究会     | 体育、わらべうた、美術                |
| ⑤ その他     | ドル平、ケース検討会議（各クラス1回）        |

### (2) 出張研修計画による実施

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| ① 全国・東京経営懇研修会・セミナー              | ……………中止または参加見合わせ                                |
| ② 東京都、多摩市、支援関係機関など行政主催研修        | ……………参加見合わせ                                     |
| ③ 東社協・日保協主催研修会                  | ……………参加見合わせ                                     |
| ④ 保育協議会・保育士会・ハンディキャップ・栄養士会・看護師会 | DVD研修、リモート実施のものに参加                              |
| ⑤ キャリアアップ研修                     | ……………参加見合わせ                                     |
| ⑥ 他                             | ……………法人で、外部に出かける研修は参加を見合わせることを決定したため、リモートのものに参加 |

### (3) 法人研修計画による実施

法人合研、中堅層研修、保健部会、給食部会、新人研修、その他。

- ▶ 中堅層研修以外はリモートを生かし実施することができ、保育内容検討に結び付けました。

### (4) 自主研修計画による実施

職員一人一人に支給される研修費補助を生かし、個人目標にそって研修計画を立ておこないます。

- ▶ 外部に出かけるものは中止したため、リモートの研修に参加しました。

## 8. 修繕実施状況、その他

長期修繕計画の見直しを行います。

照明器具入れ替え工事、掲示板改修工事、P A S交換工事及びケーブル交換工事、その他を行います。

- 掲示板、PAS 交換実施。照明器具については故障した順に実施。
- その他計画にない固定資産（給食設備）が耐用年数超えているものを中心に次々修理や交換が必要となり補正予算で対応しました。  
(北厨房排気設備更新、園庭砂場パーゴラ撤去、子育てセンター床研磨、炊飯器、保管庫)

NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス 該当	自主研修 対象	備考
1	事務室	web新人研修	法人研修委員会	リモート	6/27（土）				
2	事務室	web新人研修	法人研修委員会	リモート	6/27（土）				
3	にじ	web新人研修	法人研修委員会	リモート	6/27（土）				
4	やま	web新人研修	法人研修委員会	リモート	6/27（土）				
5	事務室	社会福祉施設職員研修	総合母子健康センター	愛育病院	10/29.30	出生前診断、乳幼児期の食事と栄養 乳幼児に多い病気と予防接種、障害児と向き合う		○	
6	事務室	中堅職員研修講座	保育プラザ	リモート	11/16（月）	よりよい保育のための職員集団づくり		○	
7	にじ	保育を「深める」シリーズ	保育プラザ	リモート	11/22（日）	子どもの育ちに学ぶ ゼロ・1・2歳児の発達と保育		○	
8	にじ	保育を「深める」シリーズ	保育プラザ	リモート	11/22（日）	子どもの育ちに学ぶ ゼロ・1・2歳児の発達と保育		○	
9	かぜ	ハンディキャップ研修	島田療育センター	DVD	11/19（木）	食べる機能について			
10	やま	ハンディキャップ研修	島田療育センター	DVD	11/19（木）	食べる機能について			
11	かぜ	ハンディキャップ研修	島田療育センター	DVD	12/15（火）	感覚運動発達			
	やま	ハンディキャップ研修	島田療育センター	DVD	12/15（火）	感覚運動発達			
13	かぜ	ハンディキャップ研修	島田療育センター	DVD	1/29（金）	発達の見立てと支援の実際			
14	やま	ハンディキャップ研修	島田療育センター	DVD	1/23（土）	発達の見立てと支援の実際			
15	そら	保育講座③	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	
16	やま	保育講座③	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	
17	やま	保育講座③	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	
18	もり	保育講座③	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	
19	うみ	保育講座③	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	
20	やま	保育講座③	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	
21	やま	保育講座③	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	
22	やま	保育講座③	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	
23	そら	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
24	やま	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
25	やま	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
26	もり	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
27	にじ	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
28	にじ	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
29	にじ	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
30	そら	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
31	やま	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
32	もり	加藤繁美保育教室	子どもの文化学校	リモート 東京保育専門学校				○	
33	もり	保育を支える思想哲学	子どもの文化学校	リモート 東京保育専門学校				○	
34	そら	保育講座	東社協保育部会	リモート		気になる子どもの発達支援		○	
35	うみ	保育講座	東社協保育部会	リモート		ヒトの脳と心の発達を科学的に捉える —コロナ禍での経験から考える—		○	

## 2020年度 練馬区立向山保育園事業報告

### 1. 児童状況

(1) 認可定員 120名 運用定員 124名

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	9	18	21	23	24	25	120
運用定員	9	19	22	24	25	25	124

(2) 保育年齢 8か月～就学前

(3) 児童状況

- ① アレルギー児 2歳：3名 3歳：1名 5歳：1名
- ② 障害児 4歳：2名 5歳：1名
- ③ 外国人家庭 2歳：2名 3歳：2名 4歳：1名
- ④ 育児困難家庭 0歳：2名 1歳：1名 2歳：1名 4歳：3名  
5歳：1名

### 2. 保育時間

開園時間 7時00分～20時30分

延長保育 7時00分～ 7時30分・18時30分～20時30分

### 3. 職員状況 (2020年4月1日現在)

(1) 正職員 ※主任2名 (給食・環境衛生)

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	環境衛生	合計
人数	1	3	1	1	25	4	1	1	37

正職員状況

- \*新規採用者 保育士 1名、栄養士 1名
- \*育休復帰者 保育士 2名
- \*産育休者 保育士 1名、栄養士 1名
- \*異動職員 園長 1名

(2) 有期雇用職員

職種	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	給食	環境衛生	日祝	合計
週5	2	2	1	2	1		2	2		12
週4		1				1				2
週3			2			1				3
週2		1				1				2
週1		1								1
日祝									1	1
計	2	5	3	2	1	3	2	2	1	21

\*日祝：調理補助

\*2歳：1名は1歳、2歳兼務

(3) 嘱託職員

① 嘱託医

戸田クリニック 戸田喜文先生（内科・小児科医）

安藤歯科医院 安藤浩徳先生（歯科医）

② 田中医院 田中美緒先生（内科・神経内科医）

講師 鈴木典子先生、北相模美恵子先生

③

4. 研修について

- ・ 自主研修は書籍を通しての研修が中心となる。
- ・ 園内研修は外部講師を招いての研修は中止する。後半期、少人数で“遊具と子どもの遊び”としてのミニ研修を実施する。

5. 特別保育事業

① 延長保育（継続利用児童数）

	朝延長 (7:00~7:30)	夕①延長 (18:30~19:30)	夕②延長 (18:30~20:30)
4月	5	10	2
3月	3	7	0



② 休日保育（継続児童数）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
定員	0	4	4	22			30
4月	0	4	4	6	10	6	30
3月	0	4	3	7	7	5	26

## 6. 新型コロナウイルス感染報告

\* 緊急事態宣言を受けての変更点

- ・ 登、降園について：玄関からの送迎を0～2歳は玄関から、3～5歳は園庭からに変更する。
- ・ 保護者には検温をお願いし、体温記入表に記載してもらう。
- ・ 感染リスクを回避するため職員も2～3チームに分けて勤務をする。
- ・ 各種会議は基本的にオンラインでおこなう。
- ・ 6月以降8月まで、幼児は異年齢保育をおこなう。
- ・ 各種行事は縮小、中止にする。
- ・ 保護者関係：懇談会は5歳を除き中止にする。個人面談は新入園児、希望者のみ、3密を避けて短時間でおこなう。
- ・ 職員から陽性者がでたため、1月9日(土)・10日(日)・11日(月)休園となる。

## 7. 2020年度の重点課題について

### はじめに

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の中、園運営の大きな課題は「感染防止に努めながらどう日常の保育を行っていくか」に終始した1年だった。誰もが経験した事のない事態の中で、当たり前としてきた日常の保育生活を「感染を防止する」という視点で見直す必要があった。職員と一つ一つの事を問いながら「コロナだからできない」という視点ではなく、「コロナの中でも何ができるのか」という視点で、向山保育園が大事にしてきたことを土台に、新たな保育の見直しをおこなう1年になった。

### (1) 運営機構の変更をしました。

- ・ 新園長は、10年近く他施設で勤務した後の向山保育園での就労となるため、副園長3名体制とし、乳児、幼児、職域と業務分担をして運営を行ってきた。園長、副園長、事務長の5名で運営委員会を構成し、園運営を中心に会議を行ってきた。新型コロナウイルス感染症の広がりの中で、対面での会議開催が困難になり、前半期はオンライン会議を実施してきた。園長、副園長、事務長と運営の強化を図ってきた。

たことで、新型コロナウイルス感染症を含め、様々な課題に対応できた。

- ・ 職員間の各種会議もオンラインで実施できるように、通信環境を整備した。
- ・ 後半期は、職員会議、保育総括等全員が参加する会議は、会場を3～4か所に分け、3密を防ぎながら実施した。対面での会議の大切さを改めて感じた。
- ・ 保護者との関わりも、これまでのように日々の子どもの様子を直接伝えることが難しかった。懇談会、保育参加等も中止した。(個人面談は新入園児、年長児、希望者のみ、距離を保ちながら短時間で実施してきた。)後半期は必要に応じてオンラインでの面談や、全園父母懇談会で伝えてきた内容を撮影し、動画配信を行った。
- ・ 父母会行事の夏祭りも、父母会と協議し中止した。今後、保護者との関係をどう作りあうのが課題となる。
- ・ 登園自粛中は、担任から定期的に子どもの様子の聞き取りや、区の一斉メール等でおたより等の発信をしてきた。
- ・ 委託園ということもあり、他施設のように減収にはならず運営を行うことができた。職員間でも向山保育園の財政の特殊性については共有してきた。

## (2) 職員一人ひとりが主体的に園運営にかかわれるようにしました。

- ・ 保育内容は、保育内容委員会を中心に作りあってきた。経験2～4年の若い職員が参加し、ベテランの職員と一緒に実践交流(わらべうた、体育的な遊び等)なども行うことで話し合いとは違う学びができた。
- ・ 年度当初は各種行事や係なども職員一人ひとりが分担して行う予定だったが、中止にしたり(餅つきは練馬区の指導で中止した)、規模を縮小したりして実施してきた。「これまではこうだったから」という経験主義的な行事から、子どもにとっての行事のありかたも職員で検討することができた。
- ・ 日祝、早番専任の職員を配置することができ、労働条件の改善ができた。また、変形労働制を取り入れることで、残業を軽減する取り組みをしてきた。
- ・ 保育は人との繋がりのおかげで成立するものだが、それが阻害される中で、職員一人ひとりのメンタル面での重圧をどう受け止めてこられたのか、また、受け止めていくのが課題となる。

## (3) 子どもたちが生き生きと育ちあう保育を行いました。

- ・ 緊急事態宣言がだされ、登園児数が少なくなり、かねてからの課題であった、3歳から5歳の異年齢保育を3ヶ月実践した。職員間での十分な論議を踏まずに行ったこともあり、当初は職員も子どもも戸惑うことが多々あったが、日を追うごとに子ども同士の関係性もでき、様々なかかわりの中で年齢別保育とは異なる姿を見

せてくれた。これらの経験を活かし、幼児の異年齢保育の2023年実施を目指していくことを、職員間で確認した。今後は実施時期および保護者との協議が課題となる。

- ・ 保育内容面では、運営会議で具体的なことについて検討し、運営責任者会議で提案し、現場の意見を尊重しあいながら「これまでこうしてきたから」ではなく、「目の前の子どもにとって何が必要か」という視点で考え合ってきた。保護者にもその都度、変更点等について、園だより、区の一斉メール等で伝えてきた。コロナ禍ということもあってか、ほとんどの保護者の理解を得て進めることができた。
- ・ コロナ禍での保育を通して、改めて最低基準の貧しさが浮き彫りになった。

#### (4) 職員研修の充実について。

- ① 園内研修
  - \* 発達に即した遊具について
  - \* 救急救命研修
- ② 巡回指導を受ける
- ③ 出張研修  
実施しなかった。
- ④ 法人研修
  - \* 法人合研、保健部会、給食部会に参加
- ⑤ 自主研修
  - \* 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置を利用し、11名が書籍等を購入して研修を行った。

#### (5) 地域に根差す保育園に。

- ・ これまで行ってきたおひさま広場を含め地域との交流は、年間を通して中止した。
- ・ 施設見学希望者には新たに作成したリーフレット等を配布し、法人、練馬区の園の映像を配信した。

## 2020 年度 砧保育園事業報告

### 1. 児童状況

- (1) 認可定員：76名
- (2) 利用定員：85名
- (3) 保育年齢：産休明け～就学前
- (4) 保育時間：7：15～22：15
- (5) 年齢別定員状況（4月1日現在）

年齢	0才	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	6	12	12	14	16	16	76
利用定員	6	13	15	16	17	18	85
新入児童	6	7	2	1	0	0	16
定員割れ	0	0	0	1	2	0	3

- (6) 新入園児状況 17名 17世帯 （2020年4月1日現在）

- ①認定 全員 標準時間認定
- ②入園経過育児休業 12名、認可保育所1名、認証保育所2名、新規2名
- ③きょうだい関係 0歳児2名、1歳児3名
- ④延長対象児 1時間延長 0名  
2時間延長 1名
- ⑤困難・配慮家庭 0家庭
- ⑥障害児 0名
- ⑦アレルギー食対応児 5名（1歳児4名、2歳児1名）
- ⑧健康面配慮児 1名

- (7) 在園児状況

- ①世帯数 63世帯
- ②保育時間認定 全員 標準時間認定
- ③きょうだい関係 18組
- ④アレルギー配慮児 6名
- ⑤発達要観察配慮児 1名
- ⑥配慮家庭・関係機関対応 1家庭
- ⑦延長対象児 1時間延長 10人 2時間延長 3人

(8) 休日保育状況

- ①登録人数 12人
- ②利用児数 1日平均5名程度
- ③利用時間 7:15~18:15
- ④保育体制 正職員2~3名(保育士1~2名、調理1名)有期雇用職員2名

2. 職員状況

(1) 正職員

職種	園長	副園長	事務長	主任	保健師	保育士	栄養士 調理師	合計
人数	1	1	1	5	1	20	5	34

(2) 正職員状況

- ① 新規採用者 : 5名(保育士:4名、栄養士:1名)
- ② 法人内異動者  
向山保育園より 調理師1名
- ③ 産休・育休者 : 1名
- ④ 育児のための時間短縮勤務者: 1名
- ⑤ 育児時間取得者 : 1名
- ⑥ その他時間短縮勤務者: 2名
- ⑦ 退職者 : 2名(3月31日2名)

(3) 有期契約職員

	にじ	乳児	幼児	給食	環境 衛生	土日祝	全体	合計
人員	1	2	0	1	1	3	2	10
週5					1			1
週4	1							1
週3		2		1				3
不定期							2	2
土日祝						3		3

- ① 新規採用者 : 0名
- ② 退職者 : 0名

#### (4) 嘱託医、講師

- ① 嘱託医：橋本 倫太郎小児科医、三上 直一郎歯科医
- ② 講師：ウラベイク（造形） 西山 裕子（わらべうた）  
pilchard astrid(異文化交流) 永田 裕美子（言語聴覚士）

### 3. 新型コロナウイルス感染症対策報告

- ・世田谷区休園期間：4月20日～5月31日 ※期間中は応急保育実施
- ・2020年度中に陽性者は発生しなかったため、施設独自の休園期間は生じていません。
- ・職員PCR検査数 : 6件
- ・児童PCR検査数 : 1件
- ・保護者PCR検査数 : 10件
- ・休日保育利用保護者陽性者：1名

### 4. 2020年度 重点課題に対する取り組み

#### (1) 職員一人ひとりが主体的に園運営に関わると共に、働き続けたいと感じられる職場作りを目標としました。

2020年度は幹部体制が大きく変わったことに加え、新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応に追われ、非常に多難な一年となりました。これまで経験したことのない緊急事態の中で、通常保育はもちろん行事や会議・研修等、感染対策をどのように行うのかを常に問われ続けてきました。砧保育園で今まで積み上げてきた土台の上に立ち、更に発展させていこうというスタートの一年となるはずでしたが、結果的にその土台を見つめ直しつつ新しい価値を発見することが重点となっていきました。

しかし、このような状況の中で職員一人ひとりが改めて「なぜこうしてきたのか？」と当たり前に行ってきたことに疑問を抱き、より主体的に保育実践を捉え直す機会ともなったことが大きな成長に繋がった一年でもありました。大きな方針は運営会議で検討しつつも、具体的な内容は常に「目の前の子ども達にとっての最善とは？」を念頭に置きつつ現場職員が主体となり発案、決定していけるように意識しました。感染拡大防止と子ども達に体験させてあげたいことのバランスがどちらかに傾き過ぎないよう多角的な視点を共有しながら、その時々状況を踏まえて総合的に判断し、できるだけ一人ひとりが納得して進んでいけるよう努力しました。その論議の過程も保護者に丁寧に説明することで、厳しいご意見も一切なく共に子ども達のためにと前を向くことができました。保護者の方々の励ましは大変有難く、職員にとって心の支えとなりました。

課題としては、新型コロナウイルスの影響を受け、財源問題がより顕著となったことです。公定価格の減収はもちろん、休日保育や延長保育の利用児数等、実績に応じて得

られる補助金が見込みより大幅に減額となり、今後どのように収入を確保していくかが大きな課題となっています。また、税理士との財源分析を進めるにあたり、人件費率の高さが浮き彫りとなってきました。経営的な視点としては解決すべき最重要課題であると認識しています。今後職員と財源問題を共有する中で、納得し合いながら解消に向けて取り組んでいけるよう努力していきます。ただ、職員数の充実は保育実践を考える上ではとても重要であり、一人ひとりに寄り添う柔軟な保育を行うには必要な要素であると考えています。本来であれば西欧諸国のような配置基準が適応されることが必要ですが、日本の貧しい配置基準から算出される公定価格が基礎となった運営費や補助金では、全ての子どもの人権が保障される保育実践を行うには厳しいと言わざるを得ません。今後、法人内でも実現したい保育実践がどのようなものなのか、そのためにどのようなことが求められるのか等、大きな視点を持ち合い深め合っていきたいです。

労働環境としては、変形労働制の活用を積極的に取り入れました。それにより超過勤務の発生を一定抑制し、定められた所定労働時間内の勤務を保障すると共に超過勤務分の支出を抑えることにも繋がりました。一方で、現場職員としては慣れない勤務調整や連携の必要性が生じることで多少の混乱が生じ、「どこまで変形労働で調整すべきか？」という疑問も出されました。今後現場に負担がかかり過ぎないように意識しつつ、有効活用していけるよう努力していきます。

## **(2) 子どもの自発性、主体性が発揮される保育を目指します。**

- ① 個々の子どもの特性を理解し、子どもの気持ちに寄り添った保育を行うことを目標にしました。

昨年度に引き続き、臨床心理士を交えたクラス単位のケース検討会議をおこない実践を進めてきました。困難なケースについて、なぜそのような行動に至るのか等子どもの言動を分析したり、家庭背景を捉えることで理解を深めたりしながら、個々に適した対応を模索してきました。また、「イアーマフ」や「一人で入れるテント」等を、感覚の過敏性を抱える子ども達自身が必要とした際に活用できる物を取り入れることで、より安心して生活に向かえるよう合理的配慮を大切にしてきました。

言語聴覚士による個別練習はコミュニケーションの部分に困難を抱える子どもについて行いました。子どもとともに保育士も日常の援助を検討する点で大いに助けられました。言語聴覚士による保護者面談も希望があれば行い、個別練習の様子を伝え子どもの特性が理解できるよう働きかけを行うことで、「子どもを理解して援助する」という点で園と共に考え合うことができました。また、就学をイメージしてどのような点を意識していけばいいのかについても保護者と具体的な姿を共

有し、継続的な支援にも繋がっています。

② 異年齢保育を深め発展させることを目標としました。

この点に関しては、新型コロナウイルスの影響により取組みが困難となりました。今年度は2歳児のグループ編成を1グループ5人ずつの3グループ編成とし、グループ毎に主に交流する異年齢クラスを決めることで緩やかな2～5歳児の異年齢保育を進めていくことを計画していました。しかし、感染拡大防止の観点からセクションを越えた交流を控えざるを得ず、実現できませんでした。しかしながら、2歳児クラスを3グループに分けたことで子ども集団にまとまりが生まれ、同年齢保育の中での深まりが見られました。そのような流れの中で、異年齢クラスへの進級にあたり交流はできていないが、そのままのグループを崩さず進級することで大人が変わっても生活グループの子ども集団が変わらないことが安心に繋がるのではないかと考えました。これについては一部現場職員との意見の相違がありました。最終的に行って見て振り返ろうと検証の一年としました。

また、法人他施設への研修を計画していましたが、こちらも状況が許さず断念となりました。コロナが落ち着いたら積極的に行っていきたいと考えています。

③ 延長保育については、2020年度においては新入職員が多いことや希望職員がいなかったこともあり、専任職員を配置しない1年となりました。そのような中でも責任を持った保育を提供できるよう、担当主任や早朝保育の月案立案者を分担して行いました。運営責任者会議や総括会議でも子どもの状況を共有し、園全体で把握しながら課題を適宜検討して進めました。

ここでも、コロナ対策として夕飯の提供をどのように行うかという課題が生じ検討を行いました。夕飯提供は限定的な子どものみとなるため、より心情的配慮が必要となります。喫食状況も心情が大きく反映されるため、いかにその時間を安心して楽しい時間とできるかを検討してきた経過がありました。そのような経過の中で、職員が食事を共にすることの意義を確認し、職員はフェイスシールドをしながら食事をする対応を取ってきました。しかし、1月に感染拡大の波が大きくなり、2度目の緊急事態宣言を受ける中で、夕飯を職員が共にすることはやはり感染リスクが大きいということで、今後しばらくの間様子を見て検討していくこととしています。

④ 近年延長利用児や休日保育利用児の減少傾向を受け、補助金の削減等の制度的な変更が懸念されるため、財源も含めて総合的な対応の検討を進めていく計画としました。

法人の職員配置検討委員会や税理士の力を借りながら、財源に対して適正な職員配置の検討を進める中で退職者・育休者数を補充しないで2021年度を迎えること



としました。職員へも財源資料を示し説明することで納得を得ながら進めてきました。今後更に職員数を削減していくことが必要となる見通しのため、引き続き職員が納得できるような根拠資料を示しながら一致して進めていきます。

- ⑤ 新保育指針については、自分たちの保育実践と照らし合わせ、砧保育園の指針を持てるよう努力することを目標としていました。

この点に関しては十分に取り組み切れていないため、今後の継続課題となります。

- ⑥ 砧地域は幼児については待機児童がほぼいない状況が続いているため、幼児定員の弾力運用について解消し、本来の定員に戻していくことを検討してきました。この点に関しては、世田谷区としても今後2年間で解消に向けて検討していくことが表明されました。引き続き情勢との兼ね合いに考慮しつつ区と共に検討を進めていきます。

また、財源確保の観点からは公定価格の単価が高い乳児定員増を模索してきました。しかし、コロナの影響もあり0歳児の定員割れが深刻な状況となっており、慎重な検討が必要となっています。

- ⑦ 世田谷区休日祝日保育事業を安定的に運営することを目標としました。

この点に関しては、正職員が専任で配置できていないため、有期契約職員を可能な範囲で固定的な出勤となるよう調整することで利用児が安心して登園できる環境作りに努めてきました。ただ、こちらもコロナの影響を大きく受け、想定の手数程度程度の延べ利用児数となってしまいました。一日当たり3～5名程度のことが多く、ほぼ固定的なメンバーとなるため、保育内容的にはゆったりと安定した中でのことができました。しかし、その為に正職員保育士2名、給食職員1名、有期契約職員2名が出勤しなければならず、その分の振休が平日に発生するというアンバランスな状況となりました。可能な日には変形労働制活用で正職員保育士を1名のみ出勤とする等の工夫をしてきましたが、このような状況がしばらく続くと見込まれるため、大きな課題となっています。

### **(3) 地域に必要とされ、異年齢保育という特色ある保育園として地域に根付くよう努力しました。**

砧保育園では、園庭解放や赤ちゃん広場、離乳食教室等を地域活動として行ってきました。2020年度はコロナの影響で度々延期や中止を余儀なくされましたが、可能な状況下では積極的に行ってきました。

また、新しい取り組みとして、年度末に新入園児家庭を地域活動への参加という位置付けで、親子で園庭遊びにお誘いすることを始めました。それにより、親子共に一足早く園になれていただけたり、在園児保護者と新入園児保護者がゆったりと会話できることで園の情

報が保護者間で共有されていたりと、様々なメリットがあることが分かり、今後も引き続き位置付けていきたいと考えています。

また、地域住民からの苦情が例年以上に寄せられた一年となりました。子どもの特性やセキュリティシステムの不具合、コロナの影響による在宅時間の長時間化等、様々な要因が重なった結果ではありますが、先行きの見えないストレスフルな生活を強いられることによる反応であったのではないかと理解しています。対応としては、その都度迅速に直接対話する機会を設けて対応策をお伝えすることで安心していただけました。このような時こそ地域に必要とされる保育園となれるよう、対話を大切にしながら信頼関係を築いていきたいと考えています。

#### **(4) 施設整備を計画的に行うことを目標としました。**

この点に関しては、コロナの影響で財政状況がどのようになるのか見通しを持つこと自体が困難であったため、安全や健康に関する必要最低限の修繕に限定して行うこととしました。具体的には砂場支柱や空調機器の修繕、排気ファン洗浄等です。

鉄部塗装等、美的環境を整えるという計画を立てていましたが、今後の財政状況と併せて中長期計画と共に検討していきます。

#### **(5) 保護者と共に歩む努力を行ってきました。**

- ① 各おうちの懇談会や保育参加、日常的な会話等を通して保護者の思いや、悩みを理解し共有し合う関係を意識的に形成していくことを目標としました。

コロナ過で懇談会が中止となり、リアルな思いの共有ができなかったことや、お迎え時の保護者同士の会話も少なくなっていた状況の中で関係が築ききれず、トラブルに繋がったケースもありました。懇談会の場や何気ないやり取りの大切さを痛感する一年でした。

また、懇談会の代替措置として、例年とは異なる形での懇談を模索しました。現場職員の発想で、他の保護者に聞いてみたいこと等を募集し、紙面で思いをキャッチボールするという、紙面による懇談を行い、保護者同士がじっくり思いを共有できる場となるという実践も生まれました。

4月中旬から5月末までの休園期間中には、子どもや保護者と気持ちが繋がることを大切にした取組みを検討し、鯉のぼり作成キットを家庭に送ったり、家庭で子どもと作れるクッキングレシピをまとめたりと、一人ひとりの職員が思考を凝らして主体的に取り組みました。

誰もが感染する可能性がある中で、不安を抱えたまま子どもを預けて出勤する保護者に寄り添いながら支えていくことを大切にしようと確認してきました。在宅勤務

を利用して子ども用のマスクを手作りしてくれた職員達もいました。そのような取り組みや思いが、保護者にもしっかりと伝わったことで信頼に繋がったのではないかと考えています。

- ② 父母会と園の協議会を継続し、保育内容や保育情勢について意見交換を行い、共に育ち合う関係を作っていくことを目標としました。

コロナ禍で協議会を持つ時期がずれ込み、結果2回のみ開催となりました。主にコロナの影響を受けて行事がどのようになるのかを共有したり、地域住民から寄せられている意見の共有等を行いました。

- ③ 環境整備や行事等、保護者が子ども達のために力を発揮できる場を位置付けることで、子どもへの思いをさらに膨らませたり職員との信頼関係をより確かなものとするを目標としました。

「らいおんお楽しみ会」において保護者が昼食のお弁当を作ることで子ども達が時間を気にせず遠くの公園まで行けるように協力してもらいたい旨を伝えたところ、積極的に受け止めてくださる反応が多く見られました。「もっと協力できることがあれば言ってください!」というありがたい声も聞かれ、保護者としても我が子の年長最後の一年を良いものにしてあげたいという思いが垣間見られ、共に力を合わせるパートナーとして心強く感じました。今後も負担になり過ぎないように配慮しつつ、子ども達のために力を発揮していただける機会を設けていきたいです。

## 5. 職員研修計画

今年度は新入職員5名を迎えました。砧保育園の保育で大切にしていることを職員みんなでたしかめあいつつ研修し、専門家を入れてケース検討を行う、また法人内の施設に見学にてかけ砧保育園らしい異年齢保育をめざして深めあうことを目標としました。

### (1) 園内研修実施状況

- ① 全員研修－応急救護、防災、保育総括（荒馬、ドル平はコロナのため中止）
- ② 講師による研修－わらべうた、陶芸、歯科医の講座、言語指導
- ③ 新人研修－申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食
- ④ ケース検討－配慮児を含む保育についておうちを中心に専門家とともに検討する。  
今年度は1.2歳児のクラスも行いました。
- ⑤ 星山麻衣氏による講座研修

### (2) 専門機関の巡回指導などの実施状況

世田谷区発達支援センター（げんき）の巡回指導を受けました。

(3) 出張研修実施状況

経営懇、東社協、日本保育協会の研修に参加しました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン研修のみの参加としました。

(4) 見学研修

異年齢保育の検討を行うため、法人内施設の保育を見学し、研修を行う計画でしたが中止としました。

(5) 法人研修

法人合研、新人研修、保健部会、給食部会等に取り組みました。

(6) 自主研修

実施状況別紙

2020年度 砧保育園 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	責任者・ひよこ	保育プラザ研修	保育プラザ	保育プラザ	7月5日(日)	1歳児の発達と保育		○	
2	責任者・にじ	保育プラザ研修	保育プラザ	保育プラザ	7月10日(金)	0歳児の発達と保育		○	
3	責任者・ほし	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	9月10日(木)・24日(木),10月8日(木)	体育講座		○	
4	責任者・つき	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	9月10日(木)・24日(木),10月8日(木)	体育講座		○	
5	たいよう	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	9月10日(木)・24日(木),10月8日(木)	体育講座		○	
6	つき	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	コダーイ芸術教育研究所	10月18日(日),11月15日(日),12月20日(日)	わらべうたII		○	
7	責任者・ほし	ズバリ!子どもの行動の謎を解く初めての講座		オンライン	7月31日(金)			○	
8	副園長	ズバリ!子どもの行動の謎を解く初めての講座		オンライン	7月31日(金)			○	
9	保健	保育所における感染症セミナー	日本保育協会	オンライン	11月26日(木),12月3日(木)・10日(木)			○	
10	乳児主任	年齢別分野別学習会	東社協保育士会	オンライン	1月19日(火)			○	
11	りす	年齢別分野別学習会	東社協保育士会	オンライン	1月19日(火)			○	
12	にじ	年齢別分野別学習会	東社協保育士会	オンライン	1月19日(火)			○	
13	事務長	社会福祉法人会計簿記講座 中級	一般財団法人総合福祉研究会	オンライン	11月27日(金)~12月31日(木)			○	
14	給食	給食担当者講習会	東社協保育部会	オンライン	10月27日(火),12月4日(金),1月28日(木)			○	
15	保健	保育所等における感染症対策セミナー	社会福祉法人日本保育協会	オンライン	11月26日(木),12月3日(木),12月10日(木)			○	
16	副園長	コロナ禍での保育 子どもたちの笑顔を広げよう おとなたちのネットワークを深めよう	全国民間保育園経営研究懇話会	オンライン	2月21日(日)			○	
集計	16								

2020年度 実習生 受入れ状況

実習期間	日数・時間	大学/学年	配属クラス	備考
2月8日~ 2月28日	12日間・90h以上 実働7.75h	アルファ医療福祉専門学校/1年	つき	ご家族が体調不良のため実習期間延長

## 2020年度 上北沢こぐま保育園事業報告

### 1. 事業内容報告

(1) 認可定員 92名

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	9	16	16	16	17	18	92
在籍児童数	9	16	16	16	17	15	89

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 開園時間 7時15分～20時15分

(4) 延長保育 18時15分～20時15分（児童状況報参照）

(5) 1歳児～5歳児の異年齢保育

(6) 障害児保育（児童状況表参照）

(7) アレルギー食対応（児童状況報参照）

(8) 地域活動事業（体験保育、産前産後体験、ボランティア、実習生の受入れ等）

	実施状況
体験保育	1家庭3名・獅子舞10家庭24名参加・鏡餅作り中止
産前産後体験	5日間実施10組の親子が参加
職場体験	オンライン実施10回/絵本の読聞かせ・園の紹介動画視聴
実習生	4名(帝京短大1名・白梅学園大学1名・明星大学2名)
インターン	2名(和光大学2名)

### 2. 児童状況報告

月	新入園児	退園児	管外児童	障害児	アレルギー児	外国人家庭	育児困難家庭	延長保育1H延べ	延長保育2H延べ
4	13	1		3	3	3	1	19	1
5	1			3	3	3	1	0	0
6				3	4	3	1	6	0
7				3	5	3	1	12	0
8				3	5	3	1	16	0
9				3	5	3	1	28	1
10				3	5	3	1	33	0

月	新入 園児	退園児	管外 児童	障害児	アレルギー児	外国人 家庭	育児困難 家庭	延長保育 1H 延べ	延長保育 2H 延べ
11				3	5	3	1	28	2
12				3	5	3	2	28	1
1				3	4	3	2	18	0
2			1	3	5	3	3	19	1
3				3	5	3	3	27	1

### 3. 職員状況

#### (1) 正職員 (2020年4月1日現在)

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	合計
人数	1	2	1	1	19	2	2	28

\*主任 3名 (保育士・看護師・調理師)

#### (2) 正職員状況

- \*新規採用者 保育士 2名
- \*法人間異動者 保育士 1名
- \*育休復帰者 栄養士 1名 (コロナの状況で6月10日復帰に変更、育児短時間勤務取得)
- \*短時間正職員 保育士 1名
- \*介護休暇取得職員 看護師 1名
- \*退職者 保育士 4名
- \*有期転換職員 保育士 1名 栄養士 1名
- \*病気休暇取得職員 看護師 1名

#### (3) 有期契約職員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	9	9	10	10	9	12	9	8	10	13	13	17

\*看護師介護休暇取得の為、看護師1名を採用しました。(6月19日～7月31日)

\*感染症対策消毒作業増加で採用を増やし、契約時間変更を行ってきました。

\*3月増加は4月からの新入職員増加に伴うものです。

\*看護師病気休暇取得の為、看護師1名を採用しました。(3月11日～)

#### 4. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業 定員—6名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	5	0	2	13	11	15	16	19	15	13	16	21	146
延べ	20	0	13	59	73	90	104	104	93	81	102	124	863

\*前半期はコロナの関係で利用者が減少しましたが、後半期はリフレッシュ利用や、出産利用の需要が増加しました。

(2) 定期利用保育

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1歳児	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	44
2歳児	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

\*低年齢児の需要が増加し、6月から定員を増やし受け入れました。

(3) おでかけひろば事業 週3日(火・水・金) 5時間(10時~15時)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ	0	0	25	20	7	29	10	26	12	24	19	39	211

\*4、5月休所。

\*午前、午後予約制にし、密にならないように実施しました。又、在園児と重ならないように実施してきました。

#### 5. 研修報告(別紙)

新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、軒並み研修が中止となりましたが、園内研修や総括会議を工夫し、保育実践を深めることができました。各自の自主研修は積極的な参加が困難でした。

#### 6. 新型コロナウイルス感染症対策報告

休園状況	4月20日~5月31日		12月15日~12月24日一部休園
登園自粛等	4月10日~4月19日 (要請)	6月1日~6月30日 (要請)	1月12日~2月7日 (ご協力)
感染状況	12月:職員1名 保護者2名		
PCR検査人数	職員:6名 保護者:5名 園児:30名		
任意PCR検査	12月:園児32名・職員34名		2月:職員6名・園関係者2名
出勤状況	4月20日~5月31日 3チーム	6月1日~6月14日 2チーム	6月15日~6月28日 事務室のみ2チーム
応急保育	4月20日~5月31日		



\* 3月より、園庭登園などを開始。法人のガイドライン整備とともに、感染症対策の  
為の保育の仕方、様々な保育料の減額対応、消毒体制確保、配布資料の準備を開始  
してきました。又、休園に備え職員のチーム分け、在宅勤務の内容の整理、連絡体  
制の整備を行ってきました。行事の考え方、保育の考え方などの見直しや周知に時  
間を費やしました。

## 7. 重点課題

コロナの状況で計画していたことは出来ていませんが、「できることをやる！」と、形  
や考えを変えて、園児、保護者の命と健康、職員の就労保障を最優先に、出来ることを  
精一杯行ってきた1年間でした。

### (1) 園長交代に伴い園内の役割分担を明確化することで、円滑に園運営を行うことを目 指します。

- ・新たに事務室所属の主任2名を配置し、現場と運営のパイプ役を担ってもらいお互いに  
風通しの良い関係をつくることができました。保育士だけの目線ではなく、様々な角度  
から問題を考え集団で解決していくことができました。事務室の人員を増やしたこと  
で、この事態に対応が出来ました。
- ・コロナの状況で分散し運営を行う必要があり、困難に直面することが多かったですが、  
それぞれが学びあい、自分の役割を再認識する機会となりました。

### (2) 職員が違いを認め合いながら、他の職員とともに保育を作り合い、自分らしく働き 続けられる関係を目指します。

- ・意思疎通が不十分なままのスタートでしたが、指示系統を何度も確認しながら、「とも  
に作り合う！」を、実践してきました。それぞれの感じたこと、思っていることを伝え  
あえるよう、職員間連携に努力しています。

保育園指示系統：園長⇄副園長⇄主任⇄責任者⇄職員

- ・事象を報告することは出来るようになりましたが、それを深めて報告できるように、「具  
体的に！」を、合言葉に職員それぞれと関わってきました。
- ・総括会議などを通し、より具体的に掘り下げていくことで、職員個人が考えていること  
や知識などを全体共有する機会を設けることができました。

### (3) 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保 育を目指します。

- ・休園期間中は保育園と家庭のつながりを切らさないように、連絡帳の配信、お便りの配  
信を継続して行ってきました。又、心配な家庭には直接電話をかけるなど、家庭保育の  
支援を行ってきました。又、休園明けは園児の様子を少しでも把握していく為に、生活

アンケートを実施し、子ども理解へつなげていきました。

- ・子どもたちが憧れを抱いていたこと、「こうしてみたい！」という、憧れの気持ちや思いを話し合いの時間をじっくりとすることで、伝承されてきたことの確認や、友だちの思いに気付きながら、集団の中で、一つのことを成功させていく経験を積むことができました。
- ・おうちを超えての関わりや、0歳児との交流は積極的にはできませんでしたが、各年齢の話し合いや、戸外で一緒になる等の工夫を行い、意識できる関係の保障を行ってきました。
- ・プール活動が中止となりましたが、それに勝る感覚遊びを存分に経験できるよう、保育内容の見直しを行ってきました。

**(4) 保護者の状況や思いを職員間で共有し、保護者が主体的に保育園に関わる関係を目指します。**

- ・直接的なやり取りが不足してしまい、ご意見を頂くことが多くありました。又、問題に対しての意味付けが難しく、保護者の「どうして？」の疑問やご意見に後追いになることも多くありました。
- ・懇談会などの開催が困難でしたが、できることを考えリモートで実施できたことは、園理解への第一歩につながってきたと思います。

**(5) 地域との関わりを大事にし、地域に必要とされる保育園を目指します。**

- ・おでかけひろば、園見学会を可能な限り実施してきました。その中で、要望に沿えないこともありましたが、保護者の気持ちに寄り添い見学等を積極的に受ける事で、園を知ってもらうきっかけにつながりました。地域ニーズを理解し、電話やメール相談、時には直接面談を行い、つながり合う関係をつくってきました。
- ・他施設との交流は直接顔を合わせての実施はできませんでしたが、連絡のやりとりを密にし、情報共有は行ってきました。

2020年度 上北沢こぐま保育園 参加研修一覧

正職員

NO.	キャリアパス 該当	自主 研修 対象	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所
1	×	×	6月27日	法人WEB新入職員研修		法人	各施設
2	×	×	6月28日	法人WEB新入職員研修		法人	各施設
3	×	×	6月29日	法人WEB新入職員研修		法人	各施設
4	○	×	7月8日(水)	障がい児保育研究会	障害の理解	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
5	○	×	9月15日(火)	障がい児保育研究会	障がい児保育の環境	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
6	○	×	10月26日(月)	障がい児保育研究会	障害児の発達の援助	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
7	○	×	11月17日(火)	障がい児保育研究会	家庭及び関係機関との連携	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
8	○	×	3月8日(月)	障がい児保育研究会	指導計画・記録・評価	東京経営懇	オンライン
9	○	×	9月9日(水)	乳児保育研究会	乳児保育の意義	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
10	○	×	10月14日(水)	乳児保育研究会	乳児の発達に応じた保育内容	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
11	○	×	11月11日(水)	乳児保育研究会	乳児への適切な関わり	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
12	○	×	12月9日(水)	乳児保育研究会	乳児保育の環境	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
13	○	×	1月13日(水)	乳児保育研究会	指導計画・記録・評価	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
14	○	×	7月22日(水)	幼児保育研究会	幼児教育の意義	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
15	○	×	9月16日(水)	幼児保育研究会	幼児教育の環境	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
16	○	×	10月21日(火)	幼児保育研究会	幼児の発達に応じた保育内容	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
17	○	×	11月18日(水)	幼児保育研究会	幼児教育の指導計画、記録及評価	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
18	○	×	12月16日(水)	幼児保育研究会	小学校との接続	東京経営懇	保育プラザ2階研修室
19	×	×	8月28日(金)	第1回ひろばリーダー研修		世田谷区子ども家庭課	砧総合支所
20	×	×	9月25日(金)	第2回ひろばリーダー研修		世田谷区子ども家庭課	砧総合支所
21	×	×	12月18日(金)	第3回ひろばリーダー研修		世田谷区子ども家庭課	砧総合支所
22	×	×	3月4日(木)	第4回ひろばリーダー研修		世田谷区子ども家庭課	砧総合支所
23	×	×	9月25日(金)	法人運営研究会		東京経営懇	保育プラザ2階研修室
24	×	×	11月27日(金)	法人運営研究会		東京経営懇	保育プラザ2階研修室
25	×	×	2月26日(金)	法人運営研究会		東京経営懇	保育プラザ2階研修室
26	×	×	10月24日(月)～26日(水)	東京都子育て支援員研修		東京都	新宿エルタワー
27	×	×		ミドル研修2年次			
28	×	×		ミドル研修2年次			
29	×	×	1月27日(水)	ミドル研修2年次			
30	×	×	11月27日(金)	法人運営研究会		東京経営懇	保育プラザ2階研修室
31	×	×	2月26日(金)	法人運営研究会		東京経営懇	保育プラザ2階研修室
32	×	×	9月16日(水)	コドモンWEBセミナー	帳票管理機能について	コドモン	WEB
33	×	×	9月17日(水)	コドモンWEBセミナー	コドモン機能で出来ること	コドモン	WEB
34	×	×	9月30日(水)	コドモンWEBセミナー	献立作成について	コドモン	WEB
35	×	×	9月16日(水)	経営職・管理職として求められる財務管理		社会福祉経営全国会議	WEB
36	×	×	10月21日(水)	経営職・管理職として求められる財務管理		社会福祉経営全国会議	WEB
37	×	○	11月21日(土)	秋のWeb研修	「困難を抱えた子どもと育ちあう保育」	保育プラザJAPAN	WEB
38	×	×	11月5日(木)	第2回ひろば初任者研修		世田谷区子ども家庭課	北沢タウンホール
39	×	×	11月5日(木)	保育所会計講座		東京経営懇	保育プラザ
40			11月27日(金)	法人運営研究会	コロナ禍の中で、今後の保育施設経営を守る条件とは	東京経営懇	保育プラザ
41	×	×	12月8日(火)	特定給食施設講習会	摂食機能について学ぶ	世田谷区保健所健康推進課	WEB
42	×	×	12月9日(水)	労務かんり研修	働き方改革関連法にどう対応していくか	社会福祉経営全国会議	WEB
43	×	○	12月20日(日)	冬の研究集会		乳幼児の生活と教育研究会	WEB
44	×	○	12月20日(日)	冬の研究集会		乳幼児の生活と教育研究会	WEB
45	×	○	12月20日(日)	冬の研究集会		乳幼児の生活と教育研究会	WEB
46	×	×	12月23日(水)	世田谷区児童要録研修		世田谷区	WEB
47	×	×	12月23日(水)	世田谷区児童要録研修		世田谷区	WEB
48	×	×	12月23日(水)	世田谷区児童要録研修		世田谷区	WEB
49	×	×	1月8日(金)	長時間延長保育研究会		東京経営懇	WEB
50	×	○	1月12日	「うしろすがたが教えてくれた」		清水玲子先生	本
51	×	○	2月8日	「多様性がいきるインクルーシブ保育」		浜谷 直人先生	本
52	×	○	2月13日(土)	こどものとも社オンライン園内研修	「安全」と「安心」をつくり、園の安心を切り分ける	こどものとも社	WEB
53	×	○	2月12日	保育所等における働きやすい職場づくりセミナー	・保育の質の確保と働きやすい職員、職場づくり	社会福祉法人・日本保育協会	WEB
54	×	○	2月19日	保育所等における働きやすい職場づくりセミナー	・保育所における働き方改革の取り組み	社会福祉法人・日本保育協会	WEB
55	×	○	2月26日	保育所等における働きやすい職場づくりセミナー	・働き方改革とこれからの施設経営を考える	社会福祉法人・日本保育協会	WEB
集計							52

2020年度 上北沢こぐま保育園 参加研修一覧

園全体の研修他

NO.	役職・クラス	氏名	キャリアパス 該当	日程	研修名	テーマ・分科会名	主催者	場所	対象者
1				6月27日(土)	新人研修	法人理念と保育園を理解する	多摩福祉会	こぐま保育園	新入職員
2					新人研修	上北沢こぐま保育園を知る	上北沢こぐま保育園	上北沢こぐま保育園	新入職員
3				11月7日(土)	第6回保育・児童発達支援共同研究集会		多摩福祉会	各施設	全職員
4									
集計									3

## 2020年度 上北沢こぐま保育園研修まとめ

ねらい	<p>* 新入職員も含め、法人、園で大切にしていることを共有、振り返りを行い、学び合いながら保育をおこなっていきます。 * 一人ひとりの職員が課題をもち、自己評価シートで課題を明確にし、意識的に研修に参加していきます。 * 保育情勢や他園の保育実情を知ることで、職員が保育力を高められます。 * 姉妹園の派遣や交流も積極的にを行い、法人内園の状況も理解します。</p>							
名称	保育研修	職員全員研修	子育て講座	新人研修	出張研修	自主研修	施設見学	法人研修
目的	園で独自に行うもの							
内容	職員が保育の質の向上や技術向上を図ると同時に共通認識を得る機会とする。	全職員で学ぶ内容。	地域・保護者・職員が共に学び、子育てが前進できる機会とする。	新入職員への研修、法人理念や保育を理解する。	園（園長）からの出張指示による園全体に関わる内容のもの。	自主的に学ぶことを保障する。個人が申請を行い、承認を得る。	他園の実践に学ぶ。	法人主催の研修
<p>① 保育内容研修 ・ 園内遊具の使いかた、遊び方、環境設定等 ・ ドル平、水遊び ・ 互いに異年齢研修・交流 ② 園長・ミドル研 ・ 園長会議 ③ 子ども理解 ・ 職員会議や懇話会にて学ぶ。 ④ わらわら ・ 職員会議等の前に ・ 各おうち計画立案時に学ぶ。 ⑤ 2ヶ月に1回実施する ⑥ 行事前</p>	<p>① 上北沢こぐま保育園保育課程 ② 世田谷区保育の質ガイドライン ③ 緊急時マニュアル（防災担当者により作成） ④ 園内遊具の使いかた、遊び方、環境設定等 ⑤ 2ヶ月に1回実施する ⑥ 行事前</p>	<p>① 上北沢こぐま保育園保育課程 ② 世田谷区保育の質ガイドライン ③ 緊急時マニュアル（防災担当者により作成） ④ 園内遊具の使いかた、遊び方、環境設定等 ⑤ 2ヶ月に1回実施する ⑥ 行事前</p>	<p>① 子育て講座 ・ 子育て講座（親子であそぼう） ② 子育て講座（親子であそぼう）</p>	<p>① 新入職員への研修、法人理念や保育を理解する。 ・ 法人の歴史と理念 ・ 就業規則 ・ マナー ② 上北沢こぐま保育園について ・ 異年齢保育について ・ 子どもとの接し方 ・ 父母対応 ・ 地域を知る</p>	<p>① 東京都の研修 ② 世田谷区園長会の研修 ③ 東国園の研修 ④ 全国及び東京都経営懇話会 ・ 乳児部会 ・ 園長部会 ⑤ 鳥山地区主任保育士会議 ・ 園長部会 ⑥ コダウイ芸術教育研究所の研修 ⑦ その他 ⑧ 東京都保育士会 ⑨ 東京都保育士会 ⑩ 東京都保育士会 ⑪ 東京都保育士会 ⑫ 東京都保育士会 ⑬ 東京都保育士会 ⑭ 東京都保育士会 ⑮ 東京都保育士会 ⑯ その他</p>	<p>① 法人内見学 ・ 他園運動会見学 ・ 他園保育見学 ② 経営者加担の職員見学 ③ 鳥山地区主任保育士会議 ④ その他</p>	<p>① 法人合同研修会 ② 新入職員研修 ③ 各セクション（中堅層・後援・事務・給食） ④ その他</p>	
対象	全職員	全職員	地域の方 保護者 他園職員 全職員	新入職員	全職員	全職員	全職員	全職員
報告書等記録形式	議事録等							
備考	<p>昨年年度をベースに新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて保護者も含めた講習会を計画していく。 セクション主任と連携した講座も計画していく。</p>							
振り返り	<p>・ 外部研修が新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、中止や延期となったため参加数もなく終わる。後期に入って、オンラインの開催も追加出来るようになった。 ・ 自主研修も上記と同様中止のものも多く、オンラインの内容を職員にすすめるが、一部の職員は進んで参加していた。本の購入も進まず、3名程度であった。 ・ 子ども理解については、保育の中で起きた事象に対して園長に話を聞いてもらって、園長から話を聞いていく。引き継ぎ、課題と願う。</p>							

## 2020年度 永山小学童クラブ事業報告

### 1. 児童状況

- (1) 定員：70名
- (2) 育成年齢：6歳～11歳（小学校1年生～5年生）
- (3) 育成時間：学校下校時～19：00、学校休業時 8：00～19：00
- (4) 学年別状況：（2021年4月1日現在）

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	合計
人数	25名	29名	12名	3名	1名	70名

※待機児童14名（第2希望の永山学童クラブに入所）

### 2. 職員状況

- (1) 正職員（2020年4月1日現在）

職種	施設長	放課後児童支援員	合計
人数	1名	4名	5名

- (2) 正職員状況

\*新規採用者 1名

\*育休中職員 1名

- (3) 有期契約職員

勤務時間	4h×週4日	6h×週5日	5h×週5日	不定期 (学生・おやつ担当)	合計
人数	5名 (1名9月から)	1名	1名	2名	9名

- (4) 有期契約職員状況

\*無期転換職員4名

\*産休1名（2月から）

- (5) \*事務職員（4h×週2日） 3学童クラブ分の事務処理担当（賃金は案分）

- (6) 資格取得状況

保有資格	放課後児童支援員	保育士	教員免許
人数	9名	5名	7名 (中・高5、養護1、幼3)

### 3. 2020年度に取り組んだこと

#### (1) 新型コロナウイルス感染症対策報告

- ・ 職員でPCR検査受験2名。陰性。
- ・ 職員児童とも感染者及び濃厚接触者の発生なし。
- ・ おやつやお弁当などの飲食の場面：従来は座卓1台に7～8人着席だったが、かなり密になる。学校休業中は人数も少なかったので1台の座卓に2名で同一方向を向くことで対応できたが、7月から50人以上の登所となり、対面で着席せざるを得ず、A2のクリアファイルとブックエンドで簡易シールドを設置し飛沫対策とした。また、座卓1代につき4名とするため、座卓を買い足しプレイスペースや今まで飲食には使わなかった図書室にも座卓を置き、密をできるだけ防ぐようにした。

シールドを設置したり、座卓を出したりするのを室内に大勢の子どもがいる状態で行うのは危険が多いので、外遊びの時間帯に室内でおやつのレイアウト変更やシールド設置をするようにした。そのため、一時おやつ時間を3時30分からにしていたが、もとの4時30分に戻した。
- ・ 保護者会：密を避けるため2日に分けて行った。4月の1回目の保護者会ができず、7月に第1回目の保護者会になり、伝えることも多くなったのでパワーポイントを使って説明した。
- ・ 個人面談：透明アクリルシールドを使用し、換気等の対策も講じ実施した。
- ・ 全職員が健康管理表：体温や体長と簡単な行動記録を記入するようにし、なにかあれば、2週間遡及できるようにした。
- ・ 1日育成時の職員休憩：職員の休憩場所の確保が難しく、有期契約職員は、午前と午後に分かれて勤務するようにし、休憩が必要な職員を減らすようにした。2020年度は夏休みが2週間と短かったのと登所数も少なかったため、何とか対応できたが、夏休みがいつもどおりだと厳しい状況だった。
- ・ 熱中症対策と感染防止対策の両立：5月後半から急に暑くなり、長らく自宅待機をしていて体力が落ちていたり、暑さに慣れていない子どもたちの暑さ対応に苦慮した。また、夏休みの水遊びが実施できなかった。着替えの場所の確保ができなかったのが最大の理由である。今までは、図書室にパーティションとブルーシートで半分仕切り男女に分けて着替えていたがかなり密になる。男女入れ替え制にしてもかなりの時間が水遊びに取られるので断念した。

室内は児童も可能な範囲でマスク着用としていたが、外遊びで鬼ごっこやサッカーなど息の上がる遊びの後には、すぐにマスクができないので、5分ほど早めに切り上げ、外でマスクを外したままクールダウンをするようにした。

#### (2) グループ担当制について

- ・ コロナ感染拡大防止のため2019年度2月末から5月16日まで続いた学校休

校措置と、その後の分散登校などに伴う自粛で登所数が少なく、7月まではグループが成立しなかった。職員体制もグループ担当を実践してきた職員が1名で新人と2年目職員の3名でのグループ担当となり2年連続厳しい状況でのスタートではあったが、2年生以上の継続児童が今までの流れを身につけていて、グループでの活動が大人に指示されなくても子どもたちである程度できるようになっていたことやベテランの有期契約職員のサポートもあり、昨年度までの流れに積み重ねをすることができた。グループのメンバー構成が集団降所の地域で編成していることも、継続しやすい要因であると思える。

- ・ グループ単位で常勤と有期職員との児童状況の共有や対応についての話し合いも8月までできなかったが、9月から月に1~2回できるようになり、グループ内での職員間の意思の疎通など調整がやりやすくなった。

(3) 行事について（従来と大幅にやり方を変更したものや新たに組み込んだもの）

- ・ 学校休業や分散登校等で実施できなかった行事  
父母会共催親子交流会（例年5月末）、歯磨き教室（健康センター出張教室）
- ・ 密を避けるため2回に分けて行った行事  
ハロウィン（10月29日、30日）、お店屋さん（12月15日、16日）
- ・ 節分（2月2日）  
従来は鬼のお面を使い回していたが、感染防止のため子鬼役の子どもも大人もお面は透明のフェイスシールドに各自鬼の顔を油性ペンで描いたものを使用した。また、豆も個包装の豆を今までは投げて回収していたが、感染防止のため豆ではなく、「コロナ退散」「悪病退散」と書いた紙をまるめて豆の代わりにした。お面は好評だったので、来年以降も鬼役だけでなく全員の工作にしたい。
- ・ 3年生お別れ遠足（2月20日）3年生15名全員参加。  
例年は動物園に行っていたが、コロナ感染防止と緊急事態宣言の延長もあり、市内にある大谷戸公園に徒歩で行った。1月30日の予定だったが、緊急事態宣言の延長に伴い延期となり、宣言中ではあったが、公園そのものは使用可能だったので2月20日に実施した。広場やアスレチックなど思いきり体を動かし、わき水のところでは自然発生的な遊びが展開できた
- ・ きもちを伝えまショー（2月4日）  
子ども同士の日常のなかで言葉のやりとりで気持ちを伝え合って折り合いをつけるのがうまくいかず、どの学年でもトラブルがよく起きていた。大人が入ってやりとりをその都度振り返り、どうすればよかったか話し合い、いっしょに着地点を見つけているが、よくある事例をみんなで共有することで、同じようなことは自分たちで解決できるきっかけになればとロールプレイ方式で行った。初めての試みで課題も多いが、引き続き研究し実践していきたい。



- ・ 保護者会関係  
4月：中止。書類等郵送した。  
夏の保護者会：(7月10日、14日) 父母会引き継ぎも14日に実施。  
秋の保護者会：冬時間降所の実施についてアンケートで全保護者に確認したので、保護者会は実施せず。  
新入所説明会：(3月9日、10日)  
個人面談：①7月20日～31日 ②10月17日～11月21日

(4) 安全、健康について

- ・ 避難訓練：6月から本格的な避難訓練を月1回実施した。基本は変わらないが、育成室だけでなく、校庭遊びの時間帯や、予告なしで行うなどマンネリ化しないように行った。
- ・ 交通安全教室：交通公園の出張講座で、今年は、信号がない横断歩道がたくさんある降所路をモデルに話をしてもらった。子どもたちにとっても具体的でわかりやすかったようだ。この行事から前述の子ども会議を事前に行い、司会進行も3年生中心に進めた。
- ・ 健康管理：毎年11月に南多摩保健所からブラックライトを借りて、手洗いチェックを実施していて、本年もコロナ対応で通常から手洗いは丁寧にするよう声かけしているが、11月頃すこし中だるみの状態になったので、例年通り実施した。汚れの落ち具合が目で見えてわかるので、一定の効果はあると思われる。
- ・ アレルギー対応：ナッツアレルギーの児童にアーモンドが原料に入っているものをおやつで提供し誤食したケースがあった。児童に体調不良はなかったものの、本来あってはならないことで、すぐにおやつメニュー作成、購入、提供にいたるすべてを見直し、今までのマニュアルをさらに見直し、担当任せにせず、様々なタイミングで、全員で原料のアレルゲンチェックをできるようにした。また、日々の打ち合わせだけでなく週明けには、おやつ会議を設けその週のおやつ原料・在庫確認消費期限等の確認を全員で行うようにした。

(5) 障がいのある児童の継続育成について

- ・ 年度当初、当施設に残れず第2希望の永山学童クラブに移動した児童も8月には2名戻り、引き続き学校内の当施設で育成ができた。2021年度の申請受付で若干の加点もされたが、学年が上がると相変わらず難しい状況が続いている。すべてが現場の裁量でできることではないだけに、難しいことが多いが、より改善できる方向に向かっていくよう、利用者や主管、学校等と引き続きやりとりをしていきたい。

(6) 保護者との連携

- ・ 保護者会、個人面談：前述のように緊急事態宣言で4月は中止となったが、7月は実施した。秋は個人面談の日程と重なったのと冬時間降所についてはアンケートで意見をきき、昨年同様冬時間降所は実施せず、通年の17時降所となった。本年度も特に問題なく実施できた。
- ・ 父母会との連携：学校休校や緊急事態宣言で新年度の役員を選定し引き継ぐのが3ヶ月遅れたが、コロナ禍の特殊事情ということで会費を減額するなどの措置も含め保護者のいい連携で本年度も引き継ぎができた。親子交流会ができず、保護者同士の交流がやりにくかったが、共済事業の「どんぶりの日」や「進級・卒クラブを祝う会」などの支援もしていただけた。

(7) 学校・地域・関係機関との連携

- ・ コロナ禍であっても、可能な範囲で学校施設の利用をさせてもらっている。使用できる場の選択肢が増えることで、活動の幅が広がっている。
- ・ 関係機関とは、何度か相談することがあった。今後も連携をしっかりとしていきたい。

(8) 施設整備・職場環境

- ・ 施設ができて10年以上経過し、設備面で古くなってきているものが多い。市と相談しながら、更新していきたい。
- ・ 前述のように、職員の休憩時の密を避ける対策が難しい。ハード面ではどうしようもないので、体制の調整で乗り切るしかない。

(9) 研修・・・別紙参照

## 2020年度 永山小学童クラブ 参加研修一覧

正職員								
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス 該当	自主研修 対象	備考
1	島田療育センターティーチャートレーニング	島田療育センター	島田療育センター 厚生棟	8/3~4			○	
2	島田療育センターティーチャートレーニング	島田療育センター	島田療育センター 厚生棟	8/3~4			○	
3	救命救急講習	児童青少年課	愛宕児童館	9月1日				
4	放課後児童支援員研修	東京都福祉局	立教大学 (池袋)	9/10・11・14・15				
5	基礎学担1~3	児童青少年課	永山小学童クラブ	10/5・11/13・12/7	1: 個人情報の取り扱い・一日の流れ 2: 余暇支援 3: 保護者対応			
6	基礎学担2~3	児童青少年課	永山小学童クラブ	11/13・12/7	2: 余暇支援 3: 保護者対応			
	法人合同研究会全体会	多摩福祉会	永山小学童クラブ (リモート開催)	11月7日	全体会			
	法人合同研究会全体会	多摩福祉会	永山小学童クラブ (リモート開催)	11月7日	全体会			
	法人合同研究会全体会	多摩福祉会	永山小学童クラブ (リモート開催)	11月7日	全体会			
	法人合同研究会全体会	多摩福祉会	永山小学童クラブ (リモート開催)	11月7日	全体会			
	学童担当者会議	児童青少年課	永山学童クラブ 永山小学童クラブ	① 10月21日 ② 10月28日 ③ 11月17日 ④ 12月2日 ⑤ 12月8日	①: 災害対応 ②: 応急処置 ③: 人権 ④: 子ども虐待支援センター・発達支援室 ⑤: 子どもの見立て			
	地域子育て支援機関入門研修	東京都福祉局	東京都社会福祉保健 医療研修センター	3月24日	児童虐待防止のための「体罰によらない子育て」			

有期職員							
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	自主研修 対象	備考
1	法人研究会分代会	多摩福祉会	貝取学童クラブ	2021/11/10			
2	法人研究会分代会	多摩福祉会	貝取学童クラブ	2021/11/10			
3	法人研究会分代会	多摩福祉会	貝取学童クラブ	2021/11/10			
4	法人研究会分代会	多摩福祉会	貝取学童クラブ	2021/11/10			

	子どもたち・遊びの様子	行事
4月	3月からの休校措置が結局5月6日まで延長され、少しづつ、自粛、自宅待機、在宅ワークと保護者の勤務状況も変わってきて登所数も減ってきた。緊急事態宣言が7人に発出され、さらに登所数が20人を下回り、15日以降は10数名から7人の登所数で推移している。3密を避けるため、朝の会、勉強タイム、昼食、おやつなど集合するときは10人以下なら机1台に児童1人で向き合わないよう配慮している。10人以上の場合は、机1台につき2人が対角線に座るようにした。自由遊びはなるべくお互いがくっつかないように声掛けをするが、完全には難しい。天気の良い日は校庭で遊ぶが、雨の日は室内でトランポリンを出して換気・待ち時間との間隔にも気を付け、体を動かすようにしている。	
5月	緊急事態宣言が連休明けに解除にならず、5月25日まで続いたことで、自宅待機やテレワークを継続する家庭が多く今月の利用もほぼ10人前後で推移した。人数は少ないながらも、ある程度メンバーがまとまっているので、それなりの関係性が構築され一定の生活リズムが出来上がったようだ。ただ、これは仮の姿でありいずれ70人が復活したときもう一度4月当初をやり直すことになると思われる。夏のように暑い日もあれば、再び暖房を入れるような日もありコロナ感染とは別の体調管理も必要だった。久しぶりに登所してきた子はしばらく見ないうちに一回り体は大きくなっているが体力が低下している様子。マスクと熱中症予防が相反するものなので今後に向けての対策を職員間で何度も話あった。また、6月学校再開で登所の人数が増えることも予想されお弁当、おやつ時間がマスクを外して3密も防ぐという相反することの両立のため、学校の協力も得て体育館の使わせてもらうことと時間差をつけることで育成室でのおやつも可能となった。学校の学習面のある程度のサポートも必要と思われ、学童クラブの育成でいまままで目指していたことと、感染防止と熱中症対策の3つと余暇支援、関係性のフォロー、コロナで働き方が変わった家庭への支援など学童クラブとして模索しながらできる限りのことをやっていきたい。	
6月	前半は、分散登校が名前のあいさつで分けているので、クラスごとに違い、前半・後半登校の児童把握が難しく、表を作りマグネットで管理をおこなった。また、段階を経て登校日が増えていき、お弁当の対応も学校の協力も得られ体育館利用で3密を防ぎながらお弁当・おやつを食べるようにした。給食も始まったが、パンと牛乳という簡単なメニューだったため学童クラブのおやつは補食としての位置づけで、おにぎりに味噌汁や、枝豆、野菜ジュース、焼き鳥などカロリーだけでなく、たんぱく質やビタミンの補充も意識した。コロナ休校中は、登所人数も少なく手作りする職員体制も作れず、乾きが多かったため、久しぶりの味噌汁は大好評で1鍋の予定を2鍋追加で作った。改めて学童クラブ本来のおやつの意味を実感できる日だった。気温の高い日も多く熱中症の対応も追られた。外遊びの後すぐに室内に入れずマスクがつけられるぐらいにクールダウンをする時間を設けた。	
7月	自粛期間が終わり、今まで休んでいた子ども次々と戻り、密ではあるが学童クラブらしくなった。マスクを着けている状態なら、多少密であってもよしとしている。勉強、遊び、帰りの会などがそうである。外遊びは熱中症を防ぐためマスクを外して遊んでいる。外遊びの後、マスクがつけられる状態までクールダウンの時間が必要で、5分〜10分の時間を取っている。おやつはマスクを外すので、6月までは2回に分けていたが毎日60人近い登所となると、シールドを置いて1テーブル4人対面を食べることにした。前の子とはしゃべれないが、仕切りのない後ろの子とはしゃべってしまう。なるべくおしゃべりはやらぬように指示している。おやつ前のシールドの設置、後の撤去消毒の作業が慣れるまで試行錯誤があったが、職員もいろいろ工夫しスムーズに設置・撤去できるようになった。夏休みは、お弁当とおやつでシールドを使用となと、おやつまで消毒することが人的、空間的、時間的に大変なことが予想される。保護者会や個人面談でもこの現状を保護者にお伝えし、一定の理解はしていただいている。道具の消毒もあり何をどこまですればよいか、やってもやってもこれで安心というものがなく、現場職員も緊張の連続である。今年は梅雨も長く雨続きの7月で、外遊びはほとんど体育館だった。学校の協力で子どもたちも体を動かして遊べストレスが多少なりとも発散できたようだ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七夕(1日〜7日)かなり大振りな笹を用意でき、玄関外に立てたが、連日雨で短冊や飾りをつけられたのが6日になり、学童クラブで飾つてたのしむことができなかった。季節の行事として外したくないが、スペースがないなか、新鮮な笹に飾りつけ持ち帰ってもらうことがなかなかうまくいかないのが、課題だ。</li> <li>・保護者会(10日、14日)感染予防のため、2回に分けて実施した。1回目は父母会の引継ぎもあり、35人、14日が15人の出席だった。短時間で伝えるために、パワーポイントを使いコロナ感染防止の対応について、熱中症対応などについて説明した。4月に保護者会ができていないため、夏休みのことも含め内容を盛りだくさんで、コンパクトにまとめるのに苦慮したが、なんとか1時間以内におさめることができた。</li> <li>・個人面談(20日〜31日)1年生は全員対象で2年生以上は希望者のみで面談した。できれば、全員やりたいたところが、学校の授業が早く終わり、打ち合わせの時間があまりとれないのと、消毒に夕方の時間を使うこともあり、最小限にした。保護者会へ伝えきれなかったことをフォローし、家庭での様子や学童クラブでの様子を双方で共有できた。学童クラブの様子が開けて安心したとの感想が多く寄せられた。日程調整できなかった家庭は8月に組み込んで1年生は全員この時期に面談をしておきたい。</li> </ul>
8月	8月になって学校も本格的に授業が始まり、登所数も50人から59人の間を推移し、おやつの際は、新たに購入した机も含め座席15台と工作机、さらにモニター2台も出し、シールドを使った。夏休みはお弁当とおやつ2回を増やし、シールドを使い消毒作業も増え、職員の負担も増すことが懸念されたが、登所数が30人から40数名の範囲だったので、この2週間はシールドを使わずに過ごすことができた。着替えを極力しないで水遊びを実施したかったが、連日の猛暑の熱中症対策と職員体制の兼ね合いで実施できなかったが、せめて秋のお店屋さんで夏に出来なかったヨーヨー祭りを入れたと考えている。学校が始まったとはいえ、1時には登所するので休校期間も含めると学童クラブでの滞在時間がトータルで長くなったのと、熱中症指数が高く、長時間室内ですごすことも増え、室内の道具もほとんど遊びきった感もあった。ただ、囲碁、将棋、五目並べなど古典的な遊びはわかればおもしろいものが消毒などで職員もじっくり関われないのが悩みだが、すこしづつ輪を広げていきたい。煮詰まり感のあった夏休み後半はアイロンビーズを毎日やった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スイカ割り 17日 月曜日 水遊びはできなかったが、小さなイベントとして実施した。各学年代表をじゃんけんで決め、機織のスイカを使って室内でスイカ割りをして、本物のスイカをテラスで食べた。1年生がすいかを割る時、3年生がスイカの位置をずらしてうまく当たるようにしてあげる場面があった。全体がほのぼのとしたいい空気になるひと時だった。</li> <li>・お菓子落とし 18日 火曜日 スイカ割りの翌日、トイレットペーパーでぶら下げた袋菓子水を水鉄砲でぬらい落とせたいものをその日のおやつとして、食べた。</li> <li>・昨年の夏休みに実施し好評だったので、今年もお楽しみおやつとして取り入れた。水遊びができなかったが、水鉄砲で少し遊べたのではと思う。</li> </ul>
9月	8月の夏休み明けから、学校と学童クラブという一定の生活のリズムが全体として定着してきた。それに伴い友達関係も広がり、遊びの仲間や遊び方もそれぞれに発展や深まりが見られる。一方で気持ちのすれ違いや思い通りにならない時のやりとりでトラブルになることが1年生だけでなく2年生でも増えている。傾向として感じ方が人によってそれぞれ違うことがある、ということがわからず被害者意識を持ってしまい一方的に相手を買めケンカになっている。それぞれの言い分も聞きつつ、双方が納得できるような職員が入り着地点を一緒に探しながら解決している。中旬以降涼しくなり室内に残る子がほとんどない。蝉からバッタに虫取りも変わったが、それ以外に免ごっこ、サッカ、中当て、雨の日は体育館でドッジボールなど体を動かして遊んでいる。コロナによる学校休校の影響なのかどうかは、わからないがとっさの身のこなしや、階段から落ちたり、ジャングルジムをくぐりそこない頭をぶつける、室内での衝突など小さな怪我が多い。意図せずぶつかったことでトラブルになることも多い。学校の宿題も増えど学年も宿題が終わり切れず家庭から、学童クラブで終わらせてほしいという要望も高まっているが、遊びの時間までに終わらせられない子どもも多く家庭にもその旨伝え理解してもらっている。登所の人数が60人弱の日が多くおやつ時の密がどうしても高くなる。3:30からのおやつ開始と子どもが大勢いるなかで座車を出したりシールドを設置するなど事故のリスクが高い。30日の交通安全教室の日にコロナ以前のおやつ時間帯も30〜にしたところ、子ども達が外遊びに行っている間に座車やシールドの準備ができスムーズだったことから、今後おやつ時間を以前の4:30開始にすることでリスクを軽減しようと職員間で話し合った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き渡し訓練(9月8日(水)) コロナ対応での訓練ということで、密を避けることと、確実に引き渡すことを両立するため、保護者には玄関でカードを記入してもらい記入済みのカードをもってテラス側にもわってもらいテラスでカードと引き換えて、児童を引き渡すようにした。保護者のお迎えが始まると全体が落ち着かなくなるので、自分の名前が呼ばれるまで落ち着いて過ごせるよう防災の紙芝居をスライドにしてスクリーンに映しながら防災安全教室も同時進行で行った。避難訓練の時間帯(3:30〜4:00)のお迎えはなるべく遠慮してほしいとメール配信で伝えたが、4時のお迎えが逆に増え、対応にバツだった。今までは違う対応で職員もやってみてよかった部分もあり、いい経験になった。連絡帳でコロナ対応で工夫してよかったと評価してくださった保護者もいた。</li> <li>・こども会議①(9月28日(月)) 今でもお店屋さんや映画会などは3年生会議で中身や進行などを決めていたが、今年から安全教室なども進行は大人ではなく子ども達に任せるとそのための事前準備として1回目の子ども会議を行った。コロナの関係で今まで様々な行事が順上げになっていたが、やっと1回目の開催となった。3年生の希望者を前の週から募り、5人の3年生が集まった。話し合いでは進行役だけでなく、質問コーナーとか質問が出なかったときのための質問を考えておこうなど大人以上にしっかり考えてくれた。</li> <li>・交通安全教室(9月30日(水)) 交通公園からの出前講座でコロナでできるかどうかわからなかったが、予定通り(年間計画)実施できた。実際の降所路で信号のない横断歩道が多数あるので、実際に即した話を講話術で形を解説してもらい子ども達にも他人事ではなくわかりやすかったようだ。標識も映像ではなく実物をもってきてもらい非常にわかりやすかった。子ども会議で事前準備していた司会進行、質問コーナーなど3年生もとてもよくでき、講師の方たちからも褒められた。</li> </ul>

	子どもたち・遊びの様子	行事
10月	<p>学校が10月1日から後期となり、7時間授業も復活し登所時間の学年の時差ができ、1年生の勉強タイムが余裕をもって対応できるようになった。学校・学童クラブの生活の流れも定着し大人も子どももコロナの対応をしながらの流れがようやく定着してきた。おやつのお出し入れやシールド設置、撤去・消毒の作業も外遊び中に準備するのが一番ストレスなく安全にできることが交通安全教室以来わかったので、以前の4:30からおやつ4:50から帰りの会という流れに変更した。室内の煩雑さがこのことでかなり軽減した。「鬼滅の刃」が流行していて、9月から段ボールの刀づくりが、一部流行っていたのが、映画の公開以降大ブームとなり、あつちでもこつちでも刀づくりを男女問わずやっている。作るも振り回したくなるのも当然で作品の扱いについては、その都度子ども達とやりとり確認しながら行ったが、校庭遊びに持っていき振り回すもいて、どこまで許容するか全体で確認することも必要だと思われる。冬時間降所について保護者全員にアンケートで調査した。2名「みなさんに合わせるが、4:30降所」という回答があったが、それ以外は5時降所という回答で、2名の方に個別に確認をとり今年も冬時間は採用せず、どのコースも5時降所となった。それにあわせ、9月30日の交通安全教室を踏まえ、降所グループごとに安全マップづくりをし、降所時にフィールドワークを兼ねて交通と防犯の安全、危険について子ども達と確認した。空気清浄機を購入し育成室と事務室に設置した。スイッチなどいたずらしないよう子ども達にも「みんなを守ってくれる機械なので触らないでね」と伝えた。子ども達も事情が通じたのか誰もいたずらする子はいない。</p>	<p>・安全マップ作り(10月1日～20日) 降所グループごとに降所路の地域安全マップを制作した。こども目線で作るので、それぞれのグループの個性がでていた。信号のない横断を使うグループは車に気を付けようとか、覆があるところを通るグループは「虫が多いので危険」など大人と違う視点もあるが全て尊重して作成している。</p> <p>・個人面談(10月17日～) 全員対象の面談だが、来年度の申請も始まるので2年生以上を先にスタートした。友達関係や帰宅後の状況等について双方で共有できた。また、2年生以上(新3年生以上)は来年度第一希望の永小学童クラブに必ずしも残れない可能性があることもお伝えした。</p> <p>・ハロウィン製作(10月21日～28日) 45リットルのビニールのゴミ袋に首と手を通す穴を開けてマスキングテープを貼るなど加工してハロウィンの衣装を今年も作った。今年は「鬼滅の刃」が流行しているため、かなりの子たちが「鬼滅」由来のデザインだった。緑と黒のゴムテープで市松模様を作ったり、オレンジの袋に黄色のボスカの△で埋め尽くすなどかなり根気のいる作業だがどの子も最後までやり遂げ、刀などのアイテムも作り製作そのものも楽しんでた。</p> <p>・ハロウィン(10月29日、30日) 今年は密を避けるため2日間実施した。「トリックオアトリート」でお菓子をもらうのではなくシールをもらうことにしたり、おやつはレストランでなくいつも通りの一斉おやつにするなどコロナ対応でもがっかり楽しめるよう「激張りハロウィン」と銘打って各自作った衣装を着てシール集めやゲームをして楽しんだ。ゲームは当初、体育館を使用する予定だったが学校の運動会の関係で急遽コスモスホールに場所が変わり内容も若干変更を余儀なくされたが、大人はバタバタだったが子ども達はしっかり楽しめたようだ。</p>
11月	<p>秋らしいよく晴れた気持ちの良い気候が続いたため、連日外遊びが可能だった。「鬼滅の刃」の流行で剣づくりが盛んだったが、校庭遊びの時間になると数名が室内にいてだけでみんな外遊びを楽しんだ。全崩外に行ってしまう日もあった。例年この時期に自然発生的に秘密基地づくりが始まるが、今年も御多分に漏れず3年男子から始まった。鬼滅の影響もあり基地のための枝葉から枝を使ったり、鬼ごっこで隠れたり、大人から全く見えない倉庫の裏に入り込むも増え、外遊びのルールの再確認をした。枝をよりまわすだけでなくプランコの乗り方なども大胆になってきて手を離したり、飛び降りに近い降り方になったり、また、鬼ごっこの延長で滑り台でボールを当てたり走り降りるなど、職員間でどこまで許容するか問題になった。大人からのルールの押し付けだけでなく子ども達に気づいてもらいたいのもあり厳しく議論もしたが、滑り台は鉄棒など固定道具に危険行為はNGのシールを貼ってあることを確認し、それをもとに子ども達にも伝えることになった。思い起こせば、学校休業で長期休んでいた子やコンスタントに来ていた子など、一斉にルール確認ができないままここまでできていたことに改めて気づかされた。また、遊びのなかでも友達だったら自分の要求を聞いてくれると思っていてそうならなかったときにすぐにケンカになり「友達やめる」と言ってしまうなど1年生、2年生で男女問わず増えてきた。対人関係の経験の少なさを全体的に感じる。一つ一つ対応しているが、全体で気持ちの伝え方、遊ぶときの折り合いのつけ方など学ぶ機会の必要性も感じる。安全教室やお留守番教室などと同じ位置づけで今後実施していきたい。</p>	<p>・11/9～21 個人面談 全世帯対象で10月から面談を実施しどうしても日程の合わない1世帯を除き完了した。家庭の様子、学童クラブでの様子、今後に向けてを共有した。来年度の申請も始まっていたので、第一希望で永小に残れないこともあることを2年生以上にはお伝えした。</p> <p>・11/11 避難訓練⑤ 育成室と校庭と分散している状況での訓練を行った。直前に校庭の乾燥対策でスプリングラでの散水が行われていて、急遽体育館に変更になったが実際にはありうることなので、逆に良かった。急な変更に対応しつ施設長もいない中で初めてのシチュエーションでの訓練で、こどもだけでなく大人についても今まで見えなかったことが見えてきて今後や実際につながると思う。</p> <p>・11/16～25 手洗いチェック 南多摩保健所でブラックライトを借りて、毎年行っている手洗いチェックを実施した。例年この時期からノロやインフルエンザの予防対策として手洗いのチェックをしていたが、今年はコロナ対応にも1番手洗いというところで最近少し緩みが出ていたのも改めて手洗いのポイントのおさらいをした。日ごろの洗い方ではだめだということは、目に見える形で伝わったようだ。アトピーなど手荒れのひどい子には徹底的にもいえないが、どこをどう洗うか(手裏剣洗い、水かき洗い、スクリーン洗い)など以前から子ども達に分かりやすい言葉で教えていた洗い方があまりできなかったのは残念だ。</p> <p>・11/24～ お店屋さん準備 3年生会議で12月に実施予定のお店屋さんの内容について話し合った。お化け屋敷、ヨーヨー、射的、スライムなどがあがった。お化け屋敷は例年のように図書室を使うことがコロナ対応で不可能だが、大人の方で調整し2日間のうち1日をお化け屋敷の日として育成室をまるまる使い、翌日他の店舗ということで全て実現できることになった。今後、1、2年生も巻き込みおみやげ販売、チケットなども決めていきたい。</p>
12月	<p>昨年は、冬休みに入ってから年末年始の休みに入るまで、インフルエンザによる発熱や欠席が続いたが、今年はコロナ感染予防の対応で、手洗いやマスク等が効いているのか、風邪症状やインフルエンザなどの他の感染症の発症が今のところない。お店屋さん準備や本番があったからか、出席率も高く登所が60人を超える日もあった。コロナ感染防止のため、おやつなど飲食の時の座席の出し入れや、シールドの設置・撤去消毒など登所数が増えたとそれらの作業も増えている。また、学校のコロナ対応で授業時間も35分のままで、1、2年生の登所が1時間過ぎという日も続いていて、午後からの職員との打ち合わせの時間の確保が犠牲的に少なくなっている。それに加え、後述のように行事も盛りだくさんな月になった。コロナ対応のため1日に終わるお店屋さんも2日にするなど、密を避けるために2日がかりになっている。コロナ対応しながら、できるだけ行事も実施していこうとすると今まで以上に作業や打ち合わせも必要で、想像以上に今まで通りに行かないことを実感した。日々感染拡大が進んでいく状況で、より良い育成をコロナ対応とどう折り合いをつけていくのか、職員間で知恵を出し合ってやっていきたい。</p>	<p>・2日(水) 3年生保護者会19時～20時 卒クラブ対策と遠足についての説明。15世帯中9世帯参加。</p> <p>・3日(木) 島田巡回相談10時～12時 加配職員も含め全職員参加。事例だけでなく全体にも対応面でも応用できること学べた。</p> <p>・15日(火) お店屋さん① お化け屋敷 密を避けるため、育成室の半分を使い、この日はお化け屋敷のみに特化した。お化け屋敷に入場しない子たちの場所として校庭を使用する予定だったが、急遽使えなくなり第一公園にした。最近あまり使っていないもあって転んだり落ち葉に埋まった箇所は気づかず踏み込んでしまったり、すり傷をつくるなど軽微なケガが多く体制がギリギリだったのもあり、きどかった。おやつをリクエストのラミネートにしたのも体制が厳しくなる要因で、そのあたりを実施前に見極めておくべきだったのが大きな反省点である。</p> <p>・16日(水) お店屋さん② その他の店舗(スライム、射的、ヨーヨー釣り) 外遊びの時間はなかったが、みんな思い切りお店屋さんを楽しんだ。射的が長蛇の列になったが、待ち時間が長くても先に回ったヨーヨーやスライムで遊びながら待たせたので混雑行為や、混乱もなく終わることができた。</p> <p>・24日・25日 昼食会 学校給食がない登校日の2日間を昼食会にした。夏休みに実施できなかったのもあり2日連続にした。24日はおでん、25日はサンドウィッチとミネストローネを提供した。子ども達が登所する前からシールドを設置しておいたので、落ち着いてスタートできた。25日は学校最終日というのもあり少しレシジョンは高かったが、お代わり続出で、事故やトラブルもなく昼食会を楽しむことができた。ここでも、コロナ対応で加配職員などに早めに来て手伝ってもらうことができなかった。職員の休養を密にしないためにもかなり制約がある。</p>
1月	<p>年明けは、年末と比べて登所数が少なかったが、7日に緊急事態宣言が出ても特に人数が減るわけでもなく概ね60人弱の登所である。習い事の関係で木曜日数が少なく、昨年から児童だけの早帰りはなくなり、お迎え又は休みにしてほしいというお願いをしていたが、この1月から児童だけの早帰りがなくなって、全ての家庭の協力を得ることができた。</p> <p>始業式の日をいつも父母会共催の「どんぶりの日」としてしたが、今年は防災クッキングとしてバッククッキングでご飯を炊いた。コロナ感染防止の対応で学校行事などが無くなっている中実施できたので、保護者からも喜んでくれた。</p> <p>12月から引き続き寒い日が多かったが体調を崩す子もなく、毎日元気に過ごせた。天気も良く外遊びも毎日でき、サッカーや鬼ごっこなどはほぼ全員外遊びに行くことが増えた。元気に遊べるが、友達関係のトラブルがここに来て増えてきた。約束したのに遊んでくれないとか、〇〇ちゃんだけ遊びたい、ほかの子が入ってきたら遊ばない、など段々とお互いが分かり合えてもきているが、自分の思い通りに他者が動いてくれないことと折り合いの付け方が難しいようだ。これらをテーマに気持ちをどう伝えるかをみんなで学べる機会を2月に実施する予定である。</p> <p>アタマジラミが複数発生したので東京都のリーフレットも全家庭に配布した。学校からの連絡で把握したが、12月からだったのと、初期対応が遅れ複数に広がったようだが、どの家庭でもすぐに対応してくれたので、収束出来たと思われる。</p>	<p>8日(金)父母会共催防災クッキング 緊急事態宣言が発出されたのもあってか、年末の昼食会ほど登所人数は少なく50名だった。今までは、炊飯器で炊いたご飯にトレットをかけたのが、今回は各自計量カップで米と水を計量しポリ袋にいれ、湯せんをしてご飯を炊きトレットをかけるようにして食べた。なかなかクッキングができない中、このような方法ならバリエーションを増やしていけそう。防災対応の食事ではあるが、コロナ禍の中でもクッキングとして、子どもだけではなく職員も初めての試みでいい経験が出来た。</p> <p>27日～お留守番のお守り 各グループ毎に3年生対象に卒クラブ対策の一環として「お留守番ノート」作成がスタートした。家庭ごとのルールについて親子で話し合ってもらうきっかけやナビのような役割として、また本当にお守りの物として活用してもらえたらと思う。</p>

	子どもたち・遊びの様子	行事
2月	<p>新年度に向けて少しずつアジェンダしていくため、職員間でも今年度の育成の振り返りをし、次年度に向けていまからできることを行事や日々の育成に盛り込んでいった。行事では、秋ごろから検討していた気持ちの伝え方教室を実施した。子ども同士の気持ちのすれ違いや、自分の思い込みや勘違いによるトラブルなど、日々その都度大人が介入して時間をかけて話を聴いて一緒に着地点を見つけているようにしているが、ロールプレイなどで客観的にそのような場面をみんなで共有することで子ども同士でも解決していけるきっかけとして行った。職員も初めての経験なので手探りではあったが、職員の経験として今後に期待したい。来年度は子ども会議を頻繁に行いそのなかでこのような教室的なものも一緒に作っていくことでさらに効果がでることを期待している。すぐに効果がでるのは難しいかもしれないが、実践を検証しながら次についでにしていきたい。下旬ごろにアレルギーのある児童に朝食提供を1月にしていたことがわかった。すぐに保護者に謝罪し児童青少年課にも報告した。メニュー作成、発注から提供まで検証し同じことが二度とないようマニュアルも作成し二重三重のチェック体制と職員全員で確認できるシステムを検討しすぐに日々実践するようにした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節分(2日火)今までは、個包装の豆を豆まきをしていたが、コロナ禍で撒いた豆を回収し、消毒してから提供とも考えたが、豆のかわりに紙を丸めて中に「コロナ退散」や「悪病退散」など書いたものを入れて鬼に投げることにした。前の週から子ども達と自由時間や夕延長などの時間にみんなで作った。3年生の鬼のお面はフェイスシールドに各自鬼の顔を描いたのを使った。子どもたちが描いた鬼の顔とてもかわいくできたが、「鬼はーそと!」と紙の豆をいっぱい投げつけられ顔にも当てられるが、フェイスシールドでも守れて良かった。コロナが治まっても引き続きフェイスシールドを使用したい。</li> <li>・きもちを伝えまショー(4日水)「遊びに入れてほしい時」と「ルールがわからない時」の2つのシチュエーションでロールプレイをした。正解は1つではなく一緒に考えてよりよい着地点を子ども達が自分でできるようになるきっかけとして位置付けているが、大人のスキルも問われ、2回目以降については職員間でもっと子ども達が興味をもって、自分事として主体的に参加できるように研究をしていく必要があると思われる。</li> <li>・三年生お別れ遠足(20日土)【大谷戸公園】1月末に予定していたが、緊急事態宣言が発出されたのを受け延期した。同じく宣言下ではあったが、公園そのものは使用可だったので、実施に踏み切った。お天気も良く暖かく延期してかえって良かった。14名全員参加でき、お弁当の購入も滞りなくでき、予定通りお昼前に大谷戸公園に到着した。お弁当の後は持参したボールや公園のアスレチックなどで遊んだが、最後は満水で自然発生的な遊びが始まりお隣立しないでも自然を楽しむという目的が達成できた。コロナ禍で制限が多いなか非日常を思い切り楽しむことができた。</li> </ul>
3月	<p>手洗いやマスクさらにおやつ時の飛沫防止などに、神経を使っているが、子ども達は、明らかに意識が緩んできているように見える。学校の給食は静かに食べているようだが、学童クラブのおやつ時はシールドからはみ出してとか後ろを向くなどして、つい楽しくおしゃべりしながら食べている。机1台あたりの人数の制限やシールド設置、図書室やプレイスペースにもおやつ時だけ机を増やすなど、密を避ける対応しているが、おしゃべりは注意しても止まない。自然なことではあるが、学校と違い緊張がほぐれてのことだと思いが、これ以上の対策は難しい。</p> <p>春休みに入ると登所の人数は少ないが全体のテンションは高い。特に2年生以上で4月から当学童クラブに残れない子たちが、べたべたしてきたり、いつもならやりすごすことができる友達同士の行き違いも、いちいち引っかかってトラブルになったりすることが多かった。</p> <p>30日、31日は卒クラブする子や移動になる児童の保護者が多数挨拶にみえた。連絡帳等でもコロナで始まったこの1年学童クラブが学校休業中も含め受け入れしてきたことや、学校の行事がほとんど中止になるなかでも学童クラブはやれることを模索してやってきたことを評価していただけた。</p>	<p>進級を祝う会(3日水)</p> <p>2月下旬から準備を始めたが、出し物の練習が人数が揃わないなどきっちりできたわけではなかったが、本番はみんな集中力を発揮しどの出し物も練習よりよくできた。特に3年女子のハンドベルは練習で全員揃ったことがないまま本番を迎えたがとても上手にでき、聞いている子たちもしんと静まり演奏がおわりとアンコールがかかった。子どもたちの持っている力に大人も感動した。</p> <p>入所説明会(9日火)(10日水)</p> <p>密を避けるため2日に分けた。両日で全入所の保護者に説明できた。入所のおしりにそって育成についてと、コロナ対応、降所について説明した。</p> <p>父母会共催お弁当の日(24日水)</p> <p>学校の修了式に父母会と共催で、昼食にお弁当を発注した。欠席の児童もわざわざ出席しなくていいよう、お弁当を持ち帰ってもらった。今年度はコロナの対応でクッキングが1度しかできていなかったため、初めての試みで発注弁当をしたが、ゴミの削減など課題もある。今後はどのようにするか検討していきたい。</p>

## 2020 年度 貝取学童クラブ事業報告

### 1. 児童状況

(1) 定員：70名

(2) 育成年齢：6歳～10歳（小学1年生～4年生）

〈8月一時入所は6年生まで可

また特別支援学校、特別支援学級に通う児童は6年生まで通年入所可〉

(3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00

(4) 学年別状況（4月1日在籍児数）

学年	人数
1年生	18
2年生	22
3年生	19
4年生	4
計	63

(5) 在籍児童状況

\*要配慮児：16名

\*アレルギー児：2名

\*モアサービス利用者：8名(2020年度4月)

(6) 入退所状況

・ 入所

5月：2年生1名 6月：2年生1名

・ 退所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計
1年		1			1							2
2年			3	3	1	1				1		9
3年		1	1		1	2				2		7
4年			1	1								2
計	0	2	5	4	3	3	0	0	0	3	0	20

## 2. 職員状況

(1) 正職員 4 名：施設長 1 名、主任支援員 1 名、支援員 2 名

〈2020 年 4 月より施設長交代〉

〈11 月より 1 名産休・育休を取得、5 月 1 日復帰予定〉

(2) 有期契約職員 8 名：4 時間×週 5 日 1 名、4 時間×週 4 日 1 名、

4.5 時間×週 4 日 1 名、4.5 時間×週 3 日 1 名、

5.5 時間×週 2 日 1 名、4 時間×週 2 日 1 名

4.5 時間×週 2 日 2 名

事務員 1 名：6 時間×週 3 日

(3) 職員研修：別紙参照

## 3. 2020 年度に取り組んだこと

(1) 育成内容の充実

貝取学童クラブでの 3 グループ体制が 4 年目になり、グループごとのカラーが出始めた。1 グループは担当職員が施設長になり、前年度 1 月に正規採用された職員がもともと担当していたグループだったため、シフトする形で担当に入り、子どもたちも安定して過ごしていた。その職員は 10 月から産休・育休の為抜けてしまうところがあり施設長や別のグループの職員が入るなど連携を取りながら育成を行ってきた。

職員会議を毎月行ったり、毎日の打ち合わせをしたりし、グループの情報交換や課題の共有をしながら育成に入った。

(2) 室内整備

- ・ 子どもの入退所などの状況でレイアウトを変更してきた。マットの並べ方や机の向き、班の構成など常に試行錯誤を重ねてきた。
- ・ 新型コロナウイルスの対応で生活に変化もあり、遊具の整理をしたり、毎日の消毒をしたり、食事の時に使用する衝立の置き場を確保したりなど室内の整備をすると共に倉庫の整理を行い、事務室や育成室の整理を行ってきた。

(3) 庭

- ・ 天気のいい日にはブラシやトンボをかけて地面を平らにし、子どもたちが遊び際に危険が無いよう、でこぼこを馴らしてきた。
- ・ 排水溝や側溝の掃除、落ち葉履きをする事で蚊や害虫の発生を抑える努力をした。
- ・ テラスの「すのこ」からキノコが発生したため、子どもたちと木材を切ったり、色を塗ったり、釘を打ったりし、2 カ月ほどかけて新たな「すのこ」の制作を行った。



#### (4) 野菜の栽培

今年度は野菜の栽培のタイミングで緊急事態宣言が発令され、子どもたちからも野菜作りについての意見も少し出ていたが、始めるには時期が悪かった事もあり、栽培については行えなかった。

#### (5) 工作・手芸など

- ・ 新型コロナウイルスにより、職員も遊びの提供に模索していた頃にプラバン工作を行ったら、子どもたちから好評でしばらくプラバンを作れるようにしていた。6~7枚ほど作りまとめてストラップにしている子もいた。
- ・ 上級生が段ボールや厚紙で剣の大作を作り、他の子たちも真似をして工作をたくさんしていた。工作をしたままにしたり、誰の作品かわからなかったりと課題があるが、その都度子どもたちと話をし、伝えていった。
- ・ 秋頃から毛糸の指編みを子どもからやりたいと話があり、一人が始めるといつの間にか何人も取り組んでいた。中には毎日1Mほどの物を編んでは持って帰る子もいた。

#### (6) 事務室

- ・ 事務機の職員配置を変更後は特に課題は出てきていないが、室内の整理整頓を一人一人が意識していく事で1年間を通して少しずつきれいになってきている。まだ整理できそうな箇所はあるが、施設内、倉庫などの整理を引き続き行いながら、働きやすい環境作りを今後も行っていきたい。

### 4. 地域・学校・専門機関との連携について

- ・ 学校の運動会や発表会、学校公開などは新型コロナウイルスの対策で、学校が行っていなかったため行くことはできなかった。クラス担任や副校長、養護の先生方とは日々電話等で情報交換を行った。夏休み前にクラス担任と情報交換を行いその後の育成に役立てることが出来た。
- ・ 青少協、子育てミーティング等地域の会議に参加し、情報交換を行った。

### 5. 子どもたちの様子

#### 〈全体として〉

新型コロナウイルスで学校の休校や分散登校があり、1年生はその前の卒園式も入学式もちゃんに行えずにきている中で、頑張っって新しい生活に馴染もうとしていた。

2、3、4年生も例年とは違う流れに戸惑う子どももいたが、少しずつ慣れ始めていた。3年生は例年開催している行事が行えなかったり、登所人数が少ない中での遊びに限界があり、学童クラブでの中心となる事ができず、遊びこめない子も多かったが、夏休み明け

頃から、子ども同士で声をかけて遊ぶなど中心になって進める姿も見られるようになった。しかし例年よりも遅く、3年生としての立ち位置に模索している子どもも多かった。

登所自粛依頼をしてから利用が減ってきていたが、利用に応じての減免がなくなっただけから利用する子どもが増えた。また留守番ができるようになったことを理由に、そのまま退所する子どももいた。

#### 〈グループの様子〉

- ・ イーグルス：お互いに譲り合ったり思いやったりする子どもが多く全体的に穏やかに過ごすことが出来ていた。グループの担当職員が4年間変わらなかったこともあり、自立した上の学年の姿を見てきたこともあり、学年が上がっても継続されている。
- ・ オレンジ：後半は出席率が低く、帰りの会には閑散としている事もあった。2年目の継続もあり、子どもたちも安定して過ごしていた。
- ・ レアル：人数は他のグループと変わらなかったが、出席率が高かった。おやつ時に他のグループへの移動もあったが、適応していた。

### 6. 保護者との関係について

- ・ 保護者とは年に1回担当職員と施設長により個人面談を行った。そのほか心配な家庭や希望される家庭があればその都度面談を行った。
- ・ 保護者会は一斉ではなく2回に分けての開催を行った。時間も短くして行ったので、保護者同士の懇談の場はあまり持てなかった。保護者会で感染症対策について話をした事で安心してもらう事はできた。
- ・ お迎え時には子どもたちの様子をお伝えしているが、その子を一番よくみている有期契約職員から情報共有してもらい、保護者対応は正職員が行うのを原則としているが、内容によって正職員同席のもと、有期契約職員から伝えてもらうこともあった。

### 7. 新型コロナウイルス感染症について

〈PCR 検査状況〉

職員：1名 保護者：2名 児童：0名

- ・ 職員の検査があったのが6月頃で、保護者からも厳しい言葉も受けた。また学校との連絡との事で児童青少年課長から話があった。
- ・ 地域の特徴からか今のところ保護者、学校、近隣での発症については出ていない。

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<p>学校が3月に引き続き休校となり、学童クラブは朝からの開所となった。1日の生活の流れも午前中は勉強時間を2回とるなどして、遊びの時間と勉強の時間のメリハリをつけた。登所人数や職員数を減らしての育成だったため、全体での活動を多くした。</p> <p>月末に近づくとつれて登所する子が限られてきたためか、他学年での関わりが多く見られるようになった。一方、女子の出席率が低いことが理由で行き渋る子もでてきた。子どもたちはこの生活のストレスからか身体が痒くなったり、泣いたりする子が増えた。</p>	<p>予定していた行事はすべて延期または中止にした。</p>	
5月	<p>緊急事態宣言が延長し学校が引き続き休校となったため、学童クラブも朝からの開所となった。週に一度学校が始まり、子どもたちも生活の流れを再度組み立て直すこととなり、落ち着いた様子だった。特に1年生は学校に行くことが不安で泣いてしまったり、学校後登所すると寝てしまったりと疲れている様子がよく見られた。</p> <p>今月も感染拡大防止のため職員を減らしての育成となった。しかし少ない職員で施設内の消毒を毎日するのが難しく、出勤した職員の負担が大きくなってしまいそこが課題となった。</p>	<p>予定していた行事はすべて延期または中止にした。</p>	<p>2年男子1名入所</p> <p>1年男子1名、3年女子1名退所</p>
6月	<p>学校が再開となったが最初の2週間は分散登校だったため、学童クラブから学校に行く子、学校から学童クラブに帰って来る子など様々な登所方法があり、子どもも職員も混乱はあったが無事に過ごすことが出来た。</p> <p>子どもたちは学校が始まり、疲れが出て来たのか体調を崩す子が何名かいた。また後半は暑い日が増え、登所後頭痛を訴える子も出て来たため、子どもたちには熱中症に気を付けるよう注意喚起をした。</p> <p>14日に高熱でPCR検査を受けた職員がいたが、17日に陰性が確認された。保護者には15日にマチコミで報告したところ、出席予定数から追加で10名ほど休むと連絡があった。この件に関して保護者から、職員は体調管理が出来ていないのかという意見が一件あったが、その他の方からはねぎらいの言葉を多く頂いた。</p>	<p>予定していた行事はすべて延期または中止にした。</p>	<p>2年女子1名入所</p> <p>2年男子3名、3年男子1名、4年男子1名退所</p>
7月	<p>雨の日が続いたため、外遊びがあまり出来なかった。鉄心コマを購入し自由に色が塗れる事を子どもたちに伝えたところ、みんな思い思いに絵や模様を描いて楽しんでいた。コマを回せる子が練習中の子にヒモを巻くところから、回せるようになるまで寄り添いながら教える姿も多数見られた。</p> <p>また、新しいカードゲームや虫網・虫かごなどを購入したが、片付けができていない点が課題となった。今後遊ぶ時のルール作りをしていくことで解決していきたいと思う。</p> <p>新型コロナウイルス対策として、おやつ時に座席の間にプラスチック素材で作った仕切りを置くようにした。始めは慣れない環境に戸惑う子もいたが、次第に受け入れている様子が見られた。</p>	<p>保護者懇談会 11日(土)、22日(水)</p> <p>4月に延期になった保護者会・地域懇談会と夏休みの説明会を組み合わせ、地域ごと2回に分けて分散して行った。要点だけに内容を絞り込み説明した。</p> <p>新入生歓迎会 29日(水)</p> <p>4月に行う予定だった新入生歓迎会をグループ対抗ドッチボール大会として行った。負けてしまい泣き出す1年生に対してグループ全員が励ます姿も見られた。</p> <p>誕生会 29日(水)</p> <p>4月から延期していた誕生会を4・5・6・7月生まれの子を対象として行った。</p>	<p>2年男子1名、2年女子2名、4年男子1名退所</p>
8月	<p>今年の夏もかなり暑く、熱中症情報で「危険」となる日がほとんどだった。夕方になり日が陰り風が吹いている時には、指数計で庭の指数を測り大丈夫なようであれば、子どもたちは水分補給と休息を十分に取らなから日陰で虫取りやキャッチボールを楽しんだ。室内では夏休み限定でプラ板作りを行った。子どもたちはとても楽しんでいて、一日かけて難しい絵に取り組む子も多かった。</p> <p>夏休みの初週はお昼寝を行った。昨年同様寝付く前にプロジェクターを使って天井に映像を投影した。子どもたちは暑さに疲れていたのか早めに寝てしまう子も多かった。</p> <p>縁側にあるすのこが腐敗してきたため、子どもたちと一緒に新しいすのこ作りを始めた。事前に板に色塗りをしたい子を募集し、午前中の涼しい時間に日陰でペンキ塗りを行った。</p>	<p>映画会 21日(金)</p> <p>夏休み最終日に映画会を行った。今年は例年と違って実行委員は募集せず、子どもたちに見たい映画を投票してもらった形にした。全体的に距離を取るため、スクリーンの位置を変えて対応した。子どもたちはおやつとジュースを飲みながら映画を楽しんだ。</p> <p>誕生会 26日(水)</p>	<p>1年女子1名、2年女子1名、3年男子1名退所</p>
9月	<p>9月に入ってもかなり暑い日が続き、子どもたちは汗をかきながら外遊びを行っていた。夏休みに引き続き野球も人気で男子を中心に遊ぶようになった。職員がピッチャーをやるが多かったが、子どもたちにピッチャーをするように促し、いずれ大人がいなくても遊べるようにするようになった。</p> <p>前月から取り組んできたすのこ作りを継続。多くの子が床板のペンキ塗りに取り組んだ。それぞれの子がさまざまなデザインを考えて行っていた。予定していた数を無事に塗り終えることができたので月末にはトンカチを使ってくぎ打ちを行った。職員が見本を示しながら説明して行ったことで、ケガなどなくくぎ打ちを楽しむことができた。</p>	<p>避難訓練・引き渡し訓練 9日(火)</p> <p>避難訓練では多くの子が速やかに避難したが、一部の上級生がふざけてしまっていたので改めて適切な避難方法を確認した。</p> <p>引き渡しは例年玄関で行っていたが、密集と密閉を防ぐために園庭で行った。大きく表示を作るなどしたため、引き取りに来た保護者も混乱せずに行うことができた。</p> <p>誕生会 30日(水)</p>	<p>2年女子1名、3年女子2名退所</p>

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
10月	<p>天気の良い日が続く、外で体いっぱい使って遊ぶ子が多くなった。外遊びでは男女学年関係なくドッジボールやドロケイを楽しむ子が多く、大人数で遊ぶことを楽しんでいる様子だった。</p> <p>室内では長い時間をかけて写し絵をする子がたくさんいた。色塗りも細かく行っており、希望する子の絵は施設の壁面に飾った。</p> <p>26日から冬時間降所を開始した。今年度は感染症拡大防止のため保護者会は行わず、アンケートのみで冬時間降所の時間を決定した。結果は16:30に降所するコースが4つ、17:00に降所するコースが1つとなった。しかし、早く降所することになったグループの中で帰宅後に遊びに行ってしまうという報告が何件が出された。一緒に遊んでいる子の中には卒クラブ児も含まれていた為、学校にも報告した。</p>	<p>おみせやさん 21日(水) 射的、スーパーボール、おかしすくい、宝探しの4店舗を出店した。今年は感染症拡大防止のため室内ではなく庭で行った。当日は天気にも恵まれ気持ちの良い天候の中開催することが出来た。2年生と3年生を中心に各店舗ごとに話し合いを進め、約1カ月間準備をした。当日はどのお店も大繁盛で、みんなが楽しめた良い行事となった。</p> <p>誕生会 28日(水)</p>	
11月	<p>例年より暖かく過ごしやすいい日が続いたため外で遊ぶ子が多かった。職員が新しく『川』という遊びを子どもたちに教えると大流行し20人ほど集まり遊ぶこともあった。ドッジボールでは1・2年生が遊んでいる所に言葉の強い3年生数名が入ると1・2年生が抜けてしまうことが多くあることに気づいた。言葉の強い3年生たちを集めて原因を考えさせ、今後どのようにして遊んでいけば1・2年生も楽しく遊べるようになるかも考えるように促した。その後から1・2年生にボールを回したり、励ましたりする様子が見られるようになった。他の遊びでも3年生が中心になり遊びを盛り上げていく様子が多く見られた。</p> <p>一方で外に出る子が多いため室内での遊びを中心としている子が一人で遊び遊ぶことが多くなり子ども間でのコミュニケーションが減ってしまった。職員が他の子との遊びに誘うなどをして子ども間での関わりを作るようにしたが十分ではなかった。今後の課題として取り組んでいく。</p>	<p>お留守番教室 11日(水) 学童クラブで制作したお留守番ノートを配布し家庭での約束事を確認した。</p> <p>防犯教室 18日(水) 登降所中や地域に出たときの不審者対応についてロールプレイ形式で会を行った。『物をあげるからおいで』『保護者が急病になったから病院に連れて行ってあげるよ』の2つのパターンで行った。</p>	
12月	<p>12月には過ごしやすく天気の良い日が多かったため、外でドロケイやドッジボール、バドミントンを楽しむ子がたくさんいた。特にバドミントンは学年男女問わず人気で、毎日順番待ちが出来るほどだった。</p> <p>月末にはイベントがたくさんあったこともあり、出席が多かった。密を防ぐため一つの机で食べる人数は3人までとしていたが、人数が多いと机が置けないという問題が生じたため、室内のレイアウトを変えて対応した。イベントはどれも子どもたちに好評で、みんな口々に楽しいと発言し、満足そうな様子だった。</p>	<p>クリスマス工作 1日(火)～4日(金) オリジナルキャンドル作りを行った。</p> <p>誕生会 16日(水) 昼食会 24日(木) 今年度初めての昼食会を行った。今年は親子交流会が出来ず庭のかまどを使う機会がなかったため、かまどでカレーを作って子どもたちに提供した。おやつもかまどで焼いた焼き芋とマシュマロを外で食べた。</p> <p>昼食会(父母会)、映画会 25日(金) 父母会からきっちん空のお弁当を提供してもらい、2日連続昼食会を行った。昼食会後には子どもたちの投票で決めた映画をみんなで鑑賞した。大掃除 28日(月)</p>	
1月	<p>不安定な天候で寒暖差も激しかったが体調不良で休む子は少なかった。新しく購入した遊具を使うようにした。モルックは人気で多くの子がやっていたが、ルールや正しい投げ方を確認してから遊ぶようにした。学年関係なく一緒に遊んで、子どもたちの新たな関係作りのきっかけになった。</p> <p>グラヴィータラックスという遊びでは複数の子どもたちで時間をかけて作りこむ姿があった。その中で役割分担などのやりとりを子どもたちで行っていた。</p> <p>ドッジボールなど定番の遊びでは、一人の子が熱中するあまりに他の子が楽しくなくなってしまうので職員が様子を見守りし、時には声をかけるようにしてみんなが楽しめるようにした。</p>	<p>正月遊び推進週間 4日(月)～8日(金) コマ遊びやカルタなどに触れ合う期間とした。あまりコマに興味なかった子が挑戦する姿が見られた。カルタでは新しく購入したポーズカルタが人気だった。</p> <p>誕生日会 20日(水)</p>	2年男子1名、3年男子1名、3年女子1名退所
2月	<p>緊急事態宣言が延長されたが、特に利用状況には変化はなく毎日ある程度の出席はあった。全体の人数が減ったこともあり、子どもたちは比較的落ち着いた様子で過ごしていた。</p> <p>外では相変わらずドッジボールを多くの子が楽しんでいたが、既に1・2年生が遊びの中心となっているため3年生の遊び場所がなく、手持無沙汰になる姿がよく見られた。卒クラブまであと一か月ほどなので、3月は3年生も共に楽しめる遊びを提案していきたいと思う。室内ではピタゴラスの家を作って遊んだり、コマ回しを練習したりと各々楽しんで過ごしていた。</p> <p>3年生は卒クラブを祝う会に向けての準備を始めた。保護者へ感謝の手紙を書いたり、4年生へ向けた目標を考えたりとやる事がたくさんある中、みんな非常によく頑張っていた。</p>	<p>3年生お楽しみ会 20日(土) 今年度は緊急事態宣言中だったため、外部への遠足は取りやめて学童クラブ内で3年生を対象としたお楽しみ会を行った。外でお昼を食べ映画を観た後、外部から招いた講師の方にワークショップを行ってもらった。</p> <p>学年会議、誕生会 24日(水) 1・2年生は来年度に向けて各学年で会議を行った。学年が上がりどのような2・3年生になりたいかを話し合った。学年会議の後は2月生まれの子を対象に誕生会を行った。</p>	
3月	<p>進級お祝い会でドッジボール大会をすることを伝えるとドッジボールをする子が増えほとんどの子が外で遊んでいた。ドッジボールはただ遊ぶのではなく投げる練習やどうしたら上手く当てられるかなど試行錯誤しながら遊ぶ様子が見られた。2年生が遊びを仕切る場面も多く見られ、進級へ向けての意識が高まっているようだった。</p> <p>室内では1年生女子を中心におまごをよく行っていた。片付けが課題となっていたので使った物をコンテナに入れるようにしたところ、片付けが早く出来るようになった。</p> <p>3年生のやり取りの中で児童館の利用時の約束事や地域で遊ぶ約束等をしている様子が見られ卒クラブへの意識作りができていた。</p>	<p>卒クラブ式 6日(土) 緊急事態宣言下だったので3年生と職員だけで行い、内容も卒クラブ証書授与式だけ行なった。当日の様子を録画しDVDにしてお保護者に渡すこととした。</p> <p>父母会共催昼食会・進級お祝い会 24日(水) 昼食に父母会の方で準備をしたからあげお弁当を食べた。副菜の残食が多かった。</p> <p>進級お祝い会としてグループ対抗のドッジボール大会を行った。各グループ大会に合わせて練習を行ってきた成果を発揮することができた。</p>	

2020年度 貝取学童クラブ 参加研修一覧

学童クラブ全体の研修他								
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス職出	対象者	備考
1	学担	貝取学童クラブ 貝取小学童クラブ	貝取小学童クラブ	10月6日	人権について	/	正職員	
2	学担	貝取学童クラブ 貝取小学童クラブ	貝取小学童クラブ	10月6日	災害時対応について	/	正職員	
3	学担	貝取学童クラブ 貝取小学童クラブ	貝取小学童クラブ	11月11日	応急処置について	/	正職員	
4	学担	貝取学童クラブ 貝取小学童クラブ	貝取小学童クラブ	11月17日	発達支援室について	/	正職員	
5	学担	貝取学童クラブ 貝取小学童クラブ	貝取小学童クラブ	11月17日	子ども家庭支援センターについて	/	正職員	
6	学担	貝取学童クラブ 貝取小学童クラブ	貝取小学童クラブ	11月24日	子どもの見方について	/	正職員	
7	衛生推進者養成講習	公益社団法人 東京都福祉保健協会 品川区福祉支援部	たましん RISURUホール	1月27日	衛生推進者養成講習	/	今野	衛生推進者としての 資格取得の為
8	普通夜学講習	多摩市	美容室等型	8月28日 9月15日 9月18日	普通夜学講習	/	中村 今野 坂辺	各1名参加
9						/		
10						/		
11						/		
12						/		
13						/		
14						/		
15						/		
累計						/	8	

## 2020年度 永山学童クラブ事業報告

### 1. 児童状況

- (1) 定員：70名
- (2) 育成年齢：6歳～11歳（小学1年生～4年生）  
 および、特別支援学級、特別支援学校に通う児童は5、6年生まで対象
- (3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時8:00～19:00
- (4) 学年別状況：（3月31日現在 在籍数30名 ※年度当初は49名の在籍であったが新型コロナウイルス感染予防措置の影響で在宅ワークになるなど保護者の勤務状況が変わったことで退所したり永山小学童クラブの待機児童が永山小学童クラブの退所者がでたことに伴い移動したりしたため在籍数がかかり減った。）  
 1年生：10名 2年生：4名 3年生：8名 4年生：8名
- (5) 在籍児状況(3月31日現在)
- \* 要配慮児：9名
  - \* モア利用者：月利用申請者3名(うち要配慮児1名はほとんど利用なし)  
 ※年度当初は1名申請(うち要配慮児0名)  
 一時利用 月平均0～1名利用 (最多利用月12月4名)

### 2. 職員状況

- (1) 正職員(2020年4月1日現在 3名)

職種	施設長	正職員
人数	1名	2名

※新規採用、途中入退職者なし

- (2) ①有期契約職員(2020年4月1日現在 5名)

勤務時間	5時間×週5日	4時間×週5日	4時間×週4日	4時間×週3日	7時間週1日(土曜日専任)
人数	1名	1名	1名	1名	1名

②有期契約職員状況

※中途採用者 7月より2名(4時間×週5日)

※異動者 8月より4時間×週4日の職員1名が永山小学童クラブに異動

※退職者 2021年3月31日4時間×週5日の職員1名と土曜専任職員退職

- (3) 職員研修・資格取得について(主だったもの) (詳細は別紙参照)

- ・今年度の研修は新型コロナウイルス感染予防のため中止になったものが多かった。規模を縮小されたり動画配信されたりした研修に出来る限り参加した。
- ・多摩市の学童担当者会議（学担）について例年多摩市内全施設の職員対象で年6回行われていたが今年度は内容をまとめて5回にして永山小学童クラブと永山学童クラブ合同で実施し全正職員が参加した。
- ・全国学童保育合同研究集会にリモートで正職員1名が参加した。
- ・三多摩学童保育フォーラムにリモートで正職員1名が参加した。
- ・法人合同研修について リモートによる全体会、学童クラブはテーマごとに永山と貝取の2か所に分かれての分科会を実施し施設長と正職員2名と有期契約職員2名が参加した。
- ・動画配信による東京都放課後子どもスタッフ研修を有期契約職員全員が受講した。
- ・動画配信によるアレルギー研修を全職員受講した。
- ・動画配信による医療的ケア児支援者育成講座を施設長と正職員が受講した。
- ・東京都放課後児童支援員認定資格研修を有期契約職員1名が受け資格を取得した。

### 3. 新型コロナウイルス感染症対策報告

#### ① 施設の感染予防対策

- ・ 職員、子ども、保護者などの来所者には手洗い、手指消毒、検温を徹底した。
- ・ 子ども達の触れた場所、おもちゃなどは毎日消毒した。
- ・ おやつなど飲食を行う前後は机の消毒をおこない、子ども達はひとつのテーブルに2人ずつ座ってもらい間にパーテーションを置き全員同じ方向を向いて食べている間はお喋りをしないように指導した。
- ・ 職員の昼食時や休憩時は互いに距離をとり会話の自粛、休憩場所の換気やパーテーションを用いるなどの感染予防に努めた。
- ・ 子どもとその家族に発熱などいつもと体調が異なるときには利用を控えてもらうように協力をお願いした。
- ・ 職員は法人のガイドラインに従い行動を自粛し感染リスクを減らすことに努めた。
- ・ 会議や研修はリモートで行うことが多かったが、やむを得ず対面で行なう場合は職員同士の距離をとったりパーテーションを用いたりしておこなった。
- ・ 子ども達が遊びの中で密になってしまう傾向があるがそれを極力避けるためにレゴなど人気のおもちゃの数を増やしたりテラスにトランポリンやキャンプ用の椅子とテーブルを用意したり様々な場所で分散して遊べるようにした。
- ・ 行事を室内だけでなく屋外を利用しておこなったり、保護者会などは2回に分けたりして感染予防の工夫をしながら実施した。

② 施設における PCR 検査受検などの状況

- ・ 子どもと保護者には特に検査対象になる事例はなかった。
- ・ 職員の家族関係者が感染したため家族が受検することになった事例と職員の同居者が感染し職員が受検対象者になった事例があった。いずれも結果は陰性であったが一定期間職員は出勤を控えた。また、その都度、多摩市児童青少年課と法人には理事長をはじめ経営会議のメンバーに報告や対応を相談した。

4. 2020 年度の課題についての取り組み

① 子ども達を 2 つのグループに分けて正職員をそれぞれのグループに配置し有期契約職員と共にきめ細やかな育成を目指したことについて

- ・ 在籍数が少ないということと正職員が 1 名休みの時にグループに関係なく職員が全体に話をする場面も多く、グループ制を取り入れなくても育成は出来そうに思われた。しかし一方で、勉強やおやつ、帰りの会などを少人数で行うことは子ども達、特に配慮を要する子どもにとって落ち着いた環境を与えられる状況もあった。そのためグループ制を継続することとした。ただし、卒クラブ後の繋がりを考えた地域による組分けは学年や男女などのバランスが悪くなってしまうことや子ども達には様々な人と関わる大切であるとの判断から地域にこだわらない少人数編成を考えることにした。
- ・ 学校が休業し緊急事態宣言が出された 4、5 月は登所人数が少なく大人が帰りの会などの進行をしていたことや前年度まで永山小学童クラブに在籍していた子ども達が新しい環境に戸惑うのではないかということから、子ども達によるグループ活動がスムーズにできるのか大人が支援する必要があるのではないかと懸念された。しかし、通常の学童クラブの生活に戻った際に子ども達が当たり前のようにおやつや帰りの会の進行を行ったりグループ内の座席を決めたりしていた。永山小学童クラブでもグループ制が行われていたことで環境に慣れるか心配されていた子ども達にも戸惑う様子が見られなかった。また、1 年生も上級生を見て積極的に前に立って進行役を務めていた。  
大人が考える以上に子ども達にグループ活動が定着し行動できていた。
- ・ 在籍数が少ないことは、すべての職員が担当のグループや要配慮児のことだけでなく全体を見られ、グループを超えた遊びの場面などでひとりひとりの子どもの友だちとの関係性やコミュニケーションの課題を把握しやすく支援を具体的に考えることが出来た。

② 行事や通常のグループでの活動を通じて子ども達が主体性をもって行動できるように支援していくことについて

- ・ 年度の前半はほとんどの行事が新型コロナウイルスの感染予防のために中止とな



り、年間を通じて子ども達の成長を図るように考えていた活動の種類や回数が減ってしまった。後半は新型コロナウイルスの感染状況を見つつコロナ禍でも出来る方法を検討し、「おみせやさん」を室内外で行ってみたり三年生の遠足を近くの公園で出来る内容で実施したりして子ども達の活動の場を設けるように努めた。

- ・ 3, 4年生がリーダーとして活躍する場が前期にほとんどなく、卒クラブまでの成長を充分支援できないのではないかと考えられた。また、上級生の姿を見て1, 2年生が学ぶ機会がなく次の年に活動を引き継いでいけるかも心配された。しかし、昨年度までの上級生の活動を見ていたためか3, 4年生がわずかな活動のなかで企画や運営の中心となって下級生を引っ張っている姿をみて3年間あるいは4年間の異年齢の中での育ち合いの結果を見ることが出来た。

そのことにより職員はたとえコロナ禍であっても子ども達による活動と異年齢の中で育ち合う機会を大切に行事や日常の活動を考えるように努めなければならぬと考えた。

- ・ グループそれぞれ独自の活動を行うという目標については新型コロナウイルスの感染予防の観点から出来なかった。また、グループ内のそれぞれの班活動も三密を避けたのでしていなかった。次年度、コロナの流行に終息が見えない状況が続くと思われるが、先の項目にも記したが何か出来る方法で子ども達の主体的な活動と細やかな育成を模索していきたいと考える。

③ 野菜作りや簡単な調理等「食」に関する活動を通じて卒クラブ後に自立した生活が出来るようにすることについて

- ・ 野菜作りは夏野菜のみ、子ども達の希望を取ってミニトマトやホウレンソウなどを植えたが、天候があまりよくなかったためか収穫が思うようにできなかった。少ない収穫ではあったが少しずつ子ども達に分けておやつや昼ご飯の時に食べた。
- ・ 新型コロナウイルスの感染予防のために調理は子ども達にさせなかった。なんとか「食」に関する活動は出来ないものか考え、日々のおやつメニューを子ども達と一緒に考えた。
- ・ 3年生の卒クラブ遠足の際は、お金の使い方を覚えることと併せて事前にハンバーガーショップのメニューから決まったお金の範囲で自分の昼ご飯を注文する取り組みをおこなった。

④ 子ども達が適切な言葉で互いに気持ちを伝え合うようにすることについて

- ・ 特別支援学級の子供達が入所することや新型コロナウイルスの治療に携わったり感染したりした人に対する差別が社会問題になっていたことから佐藤理事に情報をいただいた資料をもとに「スティグマ（誰かを差別し良くないしるしを付けること）の講座をおこなった。子ども達には理解が難しいテーマではないかと考えて

1, 2年生と3年生以上に分けてパワーポイントを用い子ども達と一緒に考える形を用いた。子ども達は予想を超え大人からの質問や意見を聞かれた際には手を挙げ確かな意見を述べていた。この講座後は一部の要配慮児を除いて子ども達に差別的な言動は見られなかった。一部の配慮児にはその都度この講座を思い出させて繰り返し話をして理解を促した。

- ・ 前年度に引き続き、「気持ちの伝え方講座」をおこなった。職員が日常の子ども達の様子で気になった、「悪いことをしたときに嘘をつくこと」、「おもちゃの貸し借りのトラブル」、「友達と遊びたいことが違ったとき」の3つの場面を取り上げ、大人が劇で再現したものをビデオに撮り子どもと一緒に見ながらどう感じたかや適切な方法で気持ちを伝え合う方法を考えた。子ども達は真剣に見て考えた意見を発表していた。この講座後、同じような場面があったときには大人からどうしたらよかったか問うと子どもが気づくことが繰り返され適切なコミュニケーションの仕方を学ぶ姿が見られた。
- ・ 外部の団体によるCAP (Child Assault Prevention: 子どもの権利を基盤にした暴力防止プログラム) を親子それぞれに受けたらう予定だったかコロナ感染予防のために中止した。次年度、コロナの流行状況を見て実施できればしたいと考えている。

⑤ 全職員が協力し日々の育成について共通認識をもって学童クラブの運営にあたり安心と安全な環境を保護者や子供たちに提供することについて

- ・ 小学校の短時間授業により降所時間が早くなり育成時間の前に行っていた全職員の打合せ時間が十分に確保出来なかった。そのため、育成日誌や引き継ぎノートやホワイトボードを活用していたが子どもの様子についての情報の詳細や職員の育成における疑問や悩みを共有できないことがあった。そこで、降所時間後に時間を取って日々の育成の振り返りを行い、その内容を引き継ぎノートに記録していくようにした。休暇を取った職員は出勤したらそのノートを確認して全員で共通理解をもって育成に当たるようにした。
- ・ コロナの感染に気をつけながら月一回の月案会議を行い、要配慮児の育成目標を決めたり、気になる子どもの様子を共有したり行事計画の確認や環境整備について検討を行ったりした。

⑥ 研修に参加し内容を職員間で共有することにより全職員の資質向上を目指すことについて

- ・ 「2.職員状況の(3)研修」の項目にも記したが、新型コロナウイルスの感染予防のために大人数が参加する形式の研修は中止や形式を変えて行われた。出来る限り、参加可能な研修に参加するようにした。動画配信の形式の研修は、それぞれが自分

の都合の良い機会に受講でき、あらためて自設の中で研修報告をしなくても共通理解ができるものであった。殊に放課後子どもスタッフ研修で有期契約職員が要配慮児童に関する基本知識や支援のポイントを学べたことや例年一部の職員が受講していたアレルギーについての研修を全職員が受講出来たことはよかった。

- ・ 法人合同研修について今回のリモートでの実施は有期契約職員やその日勤務の職員から参加しやすかったとの感想が述べられた。
- ・ 学童担当者会議(学担)の研修について 全市の学童クラブ職員が集まり例年通り専門的な内容について講師から学びたいテーマもあったが、永山小学童クラブとの合同研修の形で行った今回の方法では施設間の情報交換の場となり自設の取り組みで不足している点を振り返り改善する良い機会となった。
- ・ コロナ禍であってもなくても研修計画をそれぞれがしっかりと立てられていなかった。次年度は各自具体的な計画を立てるようにしたい。

⑦ 地域や学校、専門機関との連携をはかり情報を共有し協力しながら児童の育成に努めていくことについて

- ・ 毎月行われていた青少年問題協議会や全体会（永山児童館と永山エリアの学童クラブ職員の会議）をはじめ地域における会議が新型コロナウイルスの感染予防から中止や回数を減らして開催された。開かれたときには出来る限り参加し情報交換をおこなった。足りない情報は、例年どおり各機関が発行するお便りを職員間で回覧して他学童クラブをはじめ他の機関や地域の状況を把握するように努めた。
- ・ 子ども家庭支援センターに虐待の疑いで一件通報することがあった。状況を詳しく確認していただいたところ今回は深刻な事態ではないと判断された。保護者との関係が通報により悪くなりそうになったが子どものことで困っていると思われることもあったのでその後も面談などで保護者の話を聞き何かあったら相談できるように学童クラブの職員ともセンターの職員とも関係を繋ぐように努めた。
- ・ 発達支援室に保護者が相談に行ったが面談や検査などが新型コロナの影響でなかなか進まず学校とも連携しながら情報を共有するようにした。
- ・ 例年同様夏休みに小学校の各担任と子どもの様子について情報交換をおこなった。今回、学校では授業時間が短く、休み時間も子ども達が密にならないようにしたり行事を中止したりしたため、勉強以外の生活の場面や友だちとの関係などあまり見られず学童クラブで課題となっている事柄を把握できていない状況があった。そのため先生方には今後随時情報交換できるようにお願いをした。
- ・ 要配慮児で自立下校が難しいと判断される児童の学校から学童クラブへの移動支援について 永山小学童クラブに入所希望であったが入所できず永山学童クラブに入所することになった子どもの保護者から学校から学童クラブに登所する際に付き添いが出来ないかを相談された。この件については学校と文書法制課の弁護

士と児童青少年課係長と意見交換や相談をおこなったが学校の状況や保険など様々な問題から学校も学童クラブも支援が出来ないという結論になった。保護者にはファミリーサポートや個別に送迎支援を行う事業所と契約してもらうことになった。次年度は申請においてこれらの子ども達が第一希望の学校内の施設に入所できる方法を児童青少年課に考えてもらう様に要請した。

## 5. 子どもたちの様子

- ・ 4, 5 月は休校や緊急事態宣言の発令、保護者への登所の自粛要請により登所の人数が 15 人を越えることはなく 10 人以下の日もあった。6 月になって分散登校が始まり徐々に登所人数が増えいつもの学童クラブの生活に戻った。中にはその頃に初めて学童クラブに登所した子どももいた。そのため学童クラブの通常の生活がすべて 2 ヶ月遅れで始まった。また、永山小学童クラブの待機児童が永山小学童クラブの退所者がでたことにより年度途中で移動することも多かった。また、保護者の勤務状況が変わり例年より早い時期に卒クラブしていく 3, 4 年生も多かった。
- ・ 上記の状況下で新入所児は例年よりも 2 ヶ月遅れて学童クラブの生活に慣れ友達関係を築くのも遅くなっていた。特に 1 年生の中に言葉で気持ちを伝えることが難しい子どもが多く、列に並ぶ順番のことやおもちゃの貸し借りなどのトラブルが夏を過ぎてても続いた。職員は根気よくその都度子ども達に話をし、どうしたらよいか集団生活のルールを丁寧に教えていた。
- ・ 「4. 2020 年度の課題についての取り組み」の②に記したが、活動の場が少ない中でも子ども達は昨年度までの経験を活かしグループ内の役割や行事に積極的に関わっていた。3, 4 年生のリーダーとしての成長も心配するほど不足を感じることはなく、下級生がそれに倣っていく様子も見られた。また、普段の遊びや行事を通じて学年や男女を超えた繋がりが育まれて、最後の 1, 2, 4 年生の進級お祝い会では 4 年生の有志に 2, 3 年生が加わってオリジナルの人形劇を行うなどの様子が見られた。
- ・ 4 年生になっても学童クラブを利用している家庭の中に子どもが留守番を一人でする自信がないといった家庭や、子どもが卒クラブ出来ると思っていてもゲームの時間を守れないなど保護者との約束が守れず保護者が不安に思って卒クラブさせられない家庭があった。3 者面談をおこなって子どもと一緒に課題を整理し生活スケジュールや約束事を確認したり、学童クラブの生活の中で宿題をしてから遊ぶなど自分で生活管理が出来るように練習をしたりして卒クラブに向けて支援した。
- ・ 在籍児童数が定員に対して少ない空間でゆったりのびのびと過ごせていた。特に要配慮児童には落ち着いた環境で育成が出来ていた。

- 遊びでは外でサッカーや野球、鬼ごっこで、室内ではLaQ やレゴなどの工作物やマグネットドールハウスやシルバニアハウスなどでごっこ遊びをする様子が見られた。また、後半、卓球が流行った。

野球やサッカー、卓球などの勝負がつく遊びではしばしばトラブルが起きた。大人が間に入って正しいルールを示したり、負けた時に悔しくても相手に嫌な思いをさせない言動を教えたりした。時には子ども同士気持ちを伝え合いどうすべきだったかを一緒に考えた。このときに前述の「気持ちの伝え方講座」の内容をフィードバックすることもあった。これは次年度も続けていく課題となると思われる。
- 要配慮児童との関りの様子ではほとんどの子どもが自然にその児童に配慮しながら遊ぶ様子が見られた。

要配慮児童の課題として沢山の子どもが遊びに入ってくると遊びから抜けてしまうことがあるので関連機関に相談しながら様々な遊びや子どもと関われるようにしていくことを考えていきたい。
- 夏の一時入所は昨年も利用した3年生1名だった。特に問題なく楽しく過ごしていた。

## 6. 家庭との連絡について

- 例年通り毎月の学童クラブだよりを発行したり、保護者会ではスライドで普段の子ども達の様子を見せたりして学童クラブの生活の理解を深める機会をもったが、個人情報の取り扱いについて市と調整中の為ホームページに写真を載せることは年度途中で止めている。また、昨年度から継続するつもりでいた、お迎え時や面談時に保護者に見せるためのアルバム作りについては職員が作成する余裕がなかったため子ども達に壁新聞という形で作成の協力をしてもらって施設内に展示することにした。来所した折に保護者に見てもらうだけでなく、子ども達も自分たちの活動の様子を確認することが出来ていた。
- 保護者同士が交流する機会として例年6月に実施していた親子交流会や2020年度の行事にあらたに交流の場として企画していたことがあったがすべて新型コロナの件で中止となった。保護者からは親子の顔がわからないので写真をお便りにのせて自己紹介することはできないかとの要望が出されたが画像承諾や個人情報の管理の問題から出来なかった。誰とどのように過ごしているかを出来る限り連絡帳に記入して伝えるにとどまった。コロナ禍が続く中で保護者同士がどのように繋がるかが課題となっている。
- 送迎のある保護者には直接、お迎えのない保護者には必要に応じて電話や面談などでこどもの様子を伝えたり家庭の状況を聞いたりということは以前と同様に大切におこなった。生活の課題や喧嘩などがあったときには職員が保護者とともに考えて子どもの育成に協力していく姿勢を大事にした。

- ・ 個人面談期間だけでなく、上記、「**5. 子どもたちの様子**」にも記したが必要に  
おうじて個人面談や三者面談をおこない、子どもの様子を伝え合い育成に活かした。
- ・ 父母会との共催行事の親子交流会や昼食会などは中止となったが、働く保護者の  
負担を減らすために昼食会は学童クラブ主催でコロナの感染リスクを防ぐために  
弁当を発注する形で実施した。進級お祝い会については保護者の意向で3年生の  
み親子で実施し、そのほかの学年は育成時間内に子ども達だけで行うこととした。  
父母会からの進級お祝いの記念品は学童クラブの記念品とともにひとりひとりの  
児童に手渡した。

## 7. 地域、学校、専門機関などとの連携

- ・ 青少年問題協議会など地域の関連機関との情報交換の場が中止になったり開催回  
数も減ったりしたが必要に応じて子ども家庭支援センター（旧 子育て総合セン  
ター）や小学校などの関連機関とは相互に子どもや家庭の情報を共有して協力し  
合うことに努めた。
- ・ 島田巡回相談を全職員で受け、要配慮児童の子どもの理解や育成に関する具体的  
な方法を学び日頃の育成に活かした。
- ・ コロナ感染予防のために多摩永山中学校の職場体験や夏のボランティアを受け入  
れ出来なかったことはとても残念だった。
- ・ こぐま保育園との交流についても中止となった。コロナ禍では直接無理でも何ら  
かの職員や子どもの交流方法はないか考えるところである。また、コロナが終息し  
た折には再開したいと考えている。
- ・ 施設内で職員や利用者が新型コロナウイルスの感染の疑いやPCR検査を受けたという情報  
が法人内に発信された際に法人内の各施設から励ましや応援を送り合っている状  
況はとても心強く感じ今後もこの繋がりを大事にしていきたいと考えた。

## 8. その他 環境整備について

- ・ 休校措置中で緊急事態宣言下では公園で遊ぶのもはばかれたため、閉館していた1  
階の児童館のスペースを借りて風船バレーで遊ぶなど子ども達が体を使って遊べ  
る工夫をした。また、「**3. 新型コロナウイルスの感染症対策報告**」にも記したが、  
テラスにトランポリンを置いたりキャンプ用のテーブルや椅子を設置したりおも  
ちゃを増やすなどの工夫をして三密を防いで子ども達が遊べるようにした。さらに  
子ども達のストレス発散にチャンバラ用のスポンジ製の刀や空気を入れて使うパ  
ンチングマシンを購入した。子ども達の力加減が強くすぐに壊れてしまった。
- ・ 休校中、学童クラブの利用を自粛したり外に出ないで過ごしていたりした為か子ど  
も達の運動機能が落ちた様子で年度初めはよく怪我をしていた。特に隣接する永山  
第二公園は危険な個所が多く怪我をする危険が高いと判断し、利用を控えて小学校

の校庭や永山第五公園や永山南公園まで子ども達を連れて行って遊ぶようにした。  
それにより事故報告をするような怪我が減った。

- 年度末、1階の児童館内の職員更衣室の雨漏り防止工事が行われるに伴い、2階の学童クラブの玄関とそれに通じる外階段が2週間ほど使用出来ず児童館入口から出入りすることになった。以前から玄関の改修工事は不可能とのことだったがこの工事の際にせめて玄関内外の壁と天井の張替えと靴箱を含めた塗装をしてほしいと市にお願いし行ってもらった。塗装の色は子ども達からの意見を参考に業者と相談して決めた。この時に行わなかった階段の錆落としと塗装については次年度早々にしてもらおうことにした。

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定員70名に対し入所人数が49名、そのうち1年生は12名、永山小学童クラブの特機児童が2年生から5年生まで14名在籍することになった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染予防の為学校が休校になりその後緊急事態宣言が発令されたことにより、市から保護者には利用の自粛、運営側には預かりの規模を縮小するように対応が求められた。その為、4月当初の利用は25人前後だったがその後は一桁台になる日もあった。</li> <li>・新入所児は昨年度からの在籍児より生活や遊びのルールを教わりすぐに慣れた様子だった。</li> <li>・永山小学童クラブに前年度まで在籍していた要配慮児の様子が心配されたが、登所人数が少なく落ち着いた環境で馴染みの有期契約職員が永山小学童クラブから異動してきたこともあり問題なく新しい環境に慣れていった。</li> </ul>	<p>以下の行事や活動はすべて新型コロナウイルス感染防止および登所人数が少ないということですべて中止となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練</li> <li>・新入生歓迎会</li> <li>・誕生日会</li> <li>・保護者会</li> </ul> <p>ただし、新入生歓迎会については昨年度からの在籍児で登所していた子ども達が紙飛行機とフェルトで作った花のプローチを用意して歓迎会をする予定だった日に登所した新入生と一緒に紙飛行機を飛ばして遊んだりプローチをプレゼントしたりした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止策に、職員と子どもにも検温と健康観察、マスクの着用、手洗いを徹底した。消毒は通常に加え昼食とおやつの前など回数を増やした。食事の際は子ども同士の距離を取って座るようにした。</li> <li>・登所を控えていた保護者から子どもの生活のリズムが狂い昼夜逆転したとの話があった。登所した時には体を動かす遊びをし夜寝られるようにした。</li> <li>・当月末1年生1名退所</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、小学校が休校で学童クラブは朝8時半から19時まで開所していた。登所の自粛要請がある間は10名以下の出席だったが緊急事態宣言が解除されてから出席人数が少し増える傾向があった。それでも15人を超えることはなかった。</li> <li>・公園で遊ぶことは控え、休館中の1階の児童館の部屋を借りて風船パレーなど少し体を動かせる遊びをした。</li> <li>・プラレールやレゴなど学年隔てなく遊んでいた。</li> <li>・子ども達の希望を聞いてテラスのプランターでトマトや大根、ほうれん草を育てることにして苗などを植えた。子ども達は朝と夕方に水やりなどの世話をしていた。</li> </ul>	<p>4月に引き続き以下の活動が中止となった。</p> <p>避難訓練（多摩市の学童クラブで実施する引き渡し訓練） 工作週間 防犯安全教室 誕生日会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生1名入所</li> <li>・当月末3年生1名退所</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月1日より小学校の分散登校が始まり学童クラブの出席者も徐々に増えてきた。</li> <li>・6月になって初めて登所した子どももいた為にあらためて学童クラブのルールや1日の流れを確認した。</li> <li>・梅雨の時期に入ったにもかかわらず晴れの日が多く外に出て鬼ごっこなどをしている様子が見られた。室内では段ボール工作で自分の家をそれぞれ作ったり剣や鎧を作ったりしていた。</li> </ul>	<p>10日 防災教室 地震 地震発生時に身を守る「ダンゴムシのポーズ」や机などの下に避難すること、外への避難経路や点呼の仕方などをパワーポイントを使って話をした。実際にダンゴムシのポーズをしたり机の下にもぐることもやってみた。</p> <p>17日 防犯安全教室 「イカのおすし」の合言葉を使って不審者への対応などをパワーポイントを使ってクイズ形式で学ぶようにした。</p> <p>26日 誕生日会 新型コロナの影響で出来なかった4、5、6月の誕生日の子どものお祝いをおこなった。進行役を子ども達が務め誕生日の子どもへインタビューをしたりおやつにケーキとジュースをだしてお祝した。 親子交流会と歯科衛生士による歯科指導は中止となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当月末以下の7名退所 2年生1名 3年生2名 4年生4名</li> <li>・熱中症の危険があるため外で遊ぶときはマスクをとって遊ぶようにした。人と近づいて話をする時にはマスクを着けさせた。</li> <li>・引き続きおやつや勉強の時に子ども同士の距離を取って新型コロナウイルスの感染予防に努めるようにした。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨が降ることが多く外で遊ぶ機会が少なかった。外遊びが出来る時は虫探し、ドロケイ、サッカーや鬼ごっこをした。近隣の子とも達も加わって大人数でドロケイをすることもあった。</li> <li>・室内ではおもちゃを増やしたことによって今まで手持ち無沙汰にしていた子ども達が色々な遊びを通して様々な友だちと関係を築くことが出来ていた。</li> <li>・一方でおもちゃの貸し借りでのトラブルがあった。大人が間に入り子ども達におもちゃの使い方のルールを決めさせて遊ぶようにした。</li> </ul>	<p>1～18日 個人面談 全家庭を対象に行った。1、2年生は日頃の様子と夏休みの生活を話し、自粛期間中の家庭での様子をうかがった。3年生以上にはさらに卒クラブに向けての取り組みや留守番の状況を聞き今後どうしていくか話をした。</p> <p>8日 避難訓練 地震を想定して訓練をおこなったが雨天のため外への避難はせず、点呼の仕方の確認した。</p> <p>22日 気持ちの伝え方講座 「スティグマ」について1、2年生と3年生以上に分けて考え学ぶ講座をおこなった。</p> <p>29日 誕生日会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当月末以下の5名退所 3年生2名 4年生2名 5年生1名</li> <li>・感染予防の為におもちゃを増やしたり、これまで行っていた消毒作業をさらに念入りにおこなうようにした。特におもちゃの消毒を徹底するようにした。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症危険指数が高く光化学スモッグも発生したため外遊びができず、室内で雨の日用のボードゲームなどのおもちゃで遊んだり、卓球をしたり、カプラーカラム、ミサンガやルームプレス、ビーズなどの工作に集中して遊んでいた。</li> <li>・夏休みの長い学童クラブの生活時間の中で子ども達は遊んだことのない遊びに挑戦することが出来、遊び方やルールを覚えいろいろな子どもと遊ぶ様子が見られた。</li> <li>・夕方少し気温が下がったところで虫捕りやサッカー、水鉄砲を使っての水遊びをした。プラスチックのバットと柔らかいボールを用意し野球が出来るようにしたところ、今まで遊んだことのない子どもも遊ぶようになった。</li> <li>・父母会から中止になった共催行事の費用で購入していただいた水風船などで水遊びをした。</li> <li>・天候不良で夏野菜があまり育たなかった。収穫できたトマトなどを少しずつおやつなどで食べた。調理は大人がした。</li> </ul>	<p>24日 避難訓練 地震を想定して訓練をおこなった。直ぐに反応しない子どもや大人の指示が聞けない子どもがいたので避難時の約束を再度確認し皆の命を守ることについて話をした。</p> <p>26日 誕生日会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の一時入所：3年生1名</li> <li>・当月末夏の一時入所児を除く以下の2名退所 3年生1名 4年1名 4年1名</li> <li>・昼食を食べる時にひとつの机に2人まで座り間にバーテーションを置いて飛沫が飛ばないようにした。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・涼しくなり外遊びの機会が増えた。公園でハンモックに寝そべったりドッジボールや狭い範囲で行うグルグル鬼ごっこなどで遊んだりしていた。</li> <li>・怪我をする子どもが多く、怪我をしないように外遊びに行くときには注意を呼びかけ、準備体操をしっかりとるようにした。</li> <li>・レゴの貸し借りが出来ずトラブルが多く大人が入って話を解決していた。</li> <li>・テラスの野菜を育てていたプランターを片付けてトランポリンやキャンプ用の椅子とテーブルを置きそこでも遊べるようにした。</li> </ul>	<p>9日 避難訓練、児童引渡し訓練 5月に行う予定だった多摩市内全学童クラブ対象に震度6弱の地震が起きたとの想定での避難訓練と引渡し訓練をおこなった。避難訓練参加者は29人、引渡し訓練参加者は28名だった。引渡し訓練時、待機中の児童は地震についてのDVDを見たクイズに答えたりして過ごした。</p> <p>23日 誕生日会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当月入所1名(4年生)</li> <li>・当月末退所者以下3名 1年生1名 4年生2名</li> <li>・おもちゃや遊べる場所を増やして密を防いで遊べる工夫をした。</li> </ul>



10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過ごしやすい陽気が続き、子ども達は外に出て野球やドッジボール、サッカー、鬼ごっこなどを学年隔てなく楽しんでいた。</li> <li>・テラスのトランポリンなどであまり外に出なかった子どもが楽しそうに遊ぶ様子も見られた。</li> <li>・ハロウィンに向けてメキシコ発祥のピニャータのくす玉を子ども達が作り、それを当日子ども達に叩いて壊してもらい中に入っていた引換券をおやつに代えてもらうという行事を試してみた。子ども達は楽しそうに参加していた。</li> <li>・11月に行うおみせやさんの準備をはじめた。春に行事を行っていない為1年生は初めての行事であったが上級生とともに準備をしていた。3、4年生はリーダーとして各お店の企画などを頑張っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7日 避難訓練</li> <li>8日、9日 保護者会 密を避けるために2日間に分けて北と南のグループ別の保護者会をおこなった。</li> <li>12日～23日 個人面談期間 3年生と希望者を対象におこなった。</li> <li>14日 お留守番講座 お留守番をノートに事前に各家庭で話し合った内容を記入してもらいそれを使って留守番のルールなどを確認した。お留守番ノートの内容は1、2年生用と3年生以上用に分けて作成した。</li> <li>19日 冬時間降所開始</li> <li>28日 誕生日会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生1名入所</li> <li>・当月末4年生1名退所</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する第二公園での怪我が多いことから安全な永山南公園や永山第五公園、小学校の校庭に行きのびのびと遊ぶようにした。</li> <li>・室内ではレゴや人形を使ったごっこ遊びをしたり、ウノや塗り絵、毛糸でポンポン作りや指編みをしていた。</li> <li>・おみせやさんでは子ども達のやりたいものや方法をなるべく尊重して実施した。子ども達ひとりひとりが自分で出来る精一杯の力でお店の準備や運営をし大盛況に終わって満足感を覚えている様子だった。またこれをきっかけに下級生と上級生が仲良くなってその後も一緒に遊んだり進級お祝い会と一緒に出し物をするきっかけとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4日 気持ちの伝え方講座 気になる子どもの様子を取り上げその場面を大人が劇で再現しビデオに撮ったものを子ども達に見せ適切なコミュニケーションの仕方と一緒に考えた。</li> <li>11日 避難訓練 降所中に地震が起きたと想定し各降所班ごとに大人の指示でその場で身を守る姿勢をとり危険箇所を確認した。</li> <li>18日 おみせやさん 室内とテラスや隣接する公園を使い密にならない工夫をして実施した。子ども達は協力しながらお店の運営をしたり客として各お店を楽しんでいた。</li> <li>24日 焼き芋パーティー 児童館敷地内で芋を大人が焼き子ども達は熾火でマシュマロをあぶりそれを室内で食べた。</li> <li>31日 誕生日会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当月末3年生1名退所</li> <li>・多摩市永山中学校から3名の生徒による職場体験が中止になった。</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月同様に永山第五公園や小学校の校庭で遊ぶようにした。子ども達はサッカーや野球、鬼ごっこなどの遊びを通じて喧嘩もあつたが異学年の子どもが繋がったり今まで遊んだことのない子ども同士が遊んだり友だち関係が広がっていた。</li> <li>・室内での遊びの場面でも要配慮児が大人とボールを転がして遊んでいるところに他の児童も加わって一緒に遊ぶ様子が見られた。</li> <li>・お楽しみ会ではやりたいものをやりたい子どもがすることにしたが3年生には出来るようなことを一つでもするようにうながした。人前に立つのが苦手な子どもも大人の手伝いの形で「宝探しゲーム」のルール説明をした。</li> <li>・3年生は卒クラブ遠足にむけ男女に分かれて話し合いを始めた。</li> <li>・毎週金曜日に各自のロッカー掃除をしていたが、年末に皆で分担して学童クラブの部屋を掃除しおもちゃなどを片づけた。子ども達は積極的に掃除をしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4日 3年生保護者会 8世帯中5世帯参加した。今後の予定の卒クラブ遠足と進級お祝い会についてどのように実施するかうかがった。また、事前にアンケートで聞いていた卒クラブ後の生活についての不安などを基に児童館館長や学童クラブ職員と保護者で意見や情報の交換をおこなった。</li> <li>9日 避難訓練 不審者が施設に入ってきた時にどう行動するかを話した。</li> <li>16日 誕生日会</li> <li>24日 お楽しみ会 有志の子ども達によるダンスやピアノ演奏の披露やクイズなどの出し物を行ったり、6つのグループに分かれて外で「宝探しゲーム」をして見つけた宝の引換券をプレゼントに代えてもらったりした。</li> <li>28日 大掃除・映画会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当月末2年生1名退所</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びの場面で、サッカーなどでシュートを決めた時に喜び合ったり、思わず友だちにぶつかってしまった時に「大丈夫？」と声をかけたり、女の子が入ってきたときは男の子たちが力を加減してくれたりなど相手を思いやる優しさが見えた。</li> <li>・室内ではお楽しみ会の時にもった新しいおもちゃで遊んでいた。わからないルールは大人に教えてもらいそれをまだ知らない友だちに教えながら遊んでいる様子があった。また、1000ピースあるジグソーパズルにみんなで取り組んで完成させていた。</li> <li>・折り紙で作った作品や人形、おままごとの道具などを使い自分達の世界観をもってごっこ遊びを楽しんでいる様子が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>18日 避難訓練 室内と永山第五公園で遊んでいる時に地震が起きたと想定し訓練した。それぞれ身をまず守り、その後室内からは隣接する永山第二公園に避難し、第五公園にいた子どもと職員は公園内の危険がないところで点呼をおこなった。子ども達は大人の指示をよく聞いて行動できた。</li> <li>27日 誕生日会</li> <li>・3年生遠足に多摩動物公園に行く予定だったが緊急事態宣言により中止となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染予防の為に手洗いをしているためか、インフルエンザなどの感染症にかかる子どもがいなかった。</li> <li>・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され新入所面談を延期した。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊び、室内遊びともに子ども達は学年、男女隔てなく遊んでいる様子が見られた。</li> <li>・3年生は進級お祝い会に向けて準備をはじめ、各自の決意を考えたり当日の流れを確認したりした。</li> <li>・全学年ともに学年ごとの来年度に向けた目標を話し合っ決めて、各自の頑張りたいことを考えたりしてそれらを垂れ幕に書いた。</li> <li>・いつも節分のおやつには恵方巻を食べるが、例年残す子どもが多く家で食べる予定があったりするので今回は「福茶」にしてイチゴ大福とおやつに出した。子ども達はあまり馴染みがないものだったがおいしそうに飲んでた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>13日 3年生遠足 市内の大谷戸公園に歩いて行きそこで3つのミッションをクリアしたり自由に遊んだりした。ミッションは男女に分かれて謎解きをしたり写真を撮ったりすることや大人対子どもでドローケイをするというものだった。子ども達はよく協力してミッションに挑戦したり男女一緒に楽しく遊んでいた。お昼は学童クラブに戻ってから食べた。</li> <li>24日 誕生日会</li> <li>27日 3年生進級お祝い会 3年生のみ親子でおこなった。卒クラブ証書を渡し3年生は今後に向けて決意を發表した。職員から出し物したり父母会と学童クラブから記念品を渡したりしてお祝いをした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足時にお金を使う練習をする目的で事前におやつを買ったり当日お土産を予算内で買う予定だったがコロナの件で出来なかった。代わりに学童クラブ内に駄菓子を用意して実際に買わせたり事前にハンバーガー屋のメニューから予算内で各自好きなものを注文し当日のお昼ご飯として食べるようにしたりした。</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度に向けて新しいおもちゃを購入したが特に大きな採め事もなく仲良く譲り合っていた。</li> <li>・1、2、4年生の進級お祝い会を育成時間中に子ども達だけで行い学年目標と各自の目標などを発表した。また、有志の子ども達が出し物を披露した。その中で特に4年生が2、3年生とともに協力して台本から小道具まで作って練習し人形劇を演じた様子や、学童クラブのすべての子どもひとりひとりに好きな色を聞いて折り鶴を折ってプレゼントしそれを受け取った子どもたちが嬉しそうにしていた姿に子ども達の成長と異年齢での育ち合いのよさが見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9日 避難訓練 不審者が玄関から入ってきたという想定で行い子どもは大人の指示で室内から児童館方向に逃げる訓練をした。</li> <li>10日 1、2、4年生の進級お祝い会 各学年の決意発表、有志の子ども達の出し物披露、一年間を振り返るスライド上映をした。父母会と学童クラブから進級お祝いの品物を各自に渡した。</li> <li>17日 誕生日会</li> <li>24日 交通安全教室 交通公園の方から自転車の乗り方を学んだ。</li> <li>25日 昼食会</li> </ul>	

2020年度 永山学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	正職員	ティーチャートレーニング	島田療育センター厚生課	東京	8月3, 4日	発達障がい児の理解と支援方法	×	○	
2	施設長	救命講習	多摩市	多摩市 愛宕児童館	9月11日	救急救命講習・AEDの使用訓練	×	×	
3	施設長 正職員	多摩福祉会合同研究会 全体会	多摩福祉会	永山学童クラブ リモート	11月7日	テーマ「つながり」	×	×	
4	施設長 正職員	多摩福祉会合同研究会 分科会	多摩福祉会	永山学童クラブ 貝取小学学童クラブ	11月10日	・つながりという自立支援 ・子どもの明日に繋がる育成と新型コロナウィルス流行で感じた人と人との繋がり ・人をおもうということ ・新しい環境に慣れるのって大変	×	×	
5	施設長 正職員	アレルギー研修	東京都	リモート	11月24日～ 3月31日	食物アレルギーなどの基礎知識と対応	×	×	
6	正職員	三多摩学童保育フォーラム	三多摩学童保育連絡協議会	リモート	1月24日	全体会「コロナ禍の今だから確認しよう！子育てでつながることの大切さ」 分科会「子ども達の笑顔あふれる豊かな放課後をつくらう！学童クラブで大切にしたいこと、守りたいことを伝えながら～」	×	○	
7	施設長 正職員	医療的ケア児支援者育成研修	東京都	リモート	2月12日～ 3月5日	医療的ケア児を支援するにあたり医療的ケア児の理解や生活支援の基礎知識等	×	×	

有期職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	自主研修対象	備考
1	有期契約職員	多摩福祉会合同研究会 全体会	多摩福祉会	永山学童クラブ	11月7日	テーマ「つながり」	×	
2	有期契約職員	多摩福祉会合同研究会 分科会	多摩福祉会	永山小学学童クラブ	11月10日	・つながりという自立支援 ・子どもの明日に繋がる育成と新型コロナウィルス流行で感じた人と人との繋がり	×	
3	有期契約職員	放課後子供総合プランスタッフ研修	東京都	リモート	3月8日～ 3月21日	特別な配慮を必要とする児童への対応について	×	
4	有期契約職員	アレルギー研修	東京都	リモート	11月24日～ 3月31日	食物アレルギーなどの基礎知識と対応	×	
5	有期契約職員	放課後児童支援員認定資格研修	東京都	クロスウェーブ付中	3月9日～ 12日	放課後児童支援員としての基本的な知識技能心得	×	

園全体の研修他								
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	対象者	備考
1	学担	多摩市	永山小学学童クラブ 永山学童クラブ	年5回	災害対応・応急処置・人権・子ども家庭支援センター・発達支援室・子どもの見立て	△	正職員	コロナ感染予防の為永山エリアの法人学童クラブで実施
2	島田巡回相談	多摩市	永山学童クラブ	11月13日	施設内の子どもの見立てと支援方法について	△	全職員	年1回

## 2020 年度 貝取小学童クラブ事業報告

### 1. 児童状況

- (1) 定員：80 名
- (2) 育成年齢：6 歳～11 歳（小学 1 年生～4 年生）  
  - 〈8 月一時入所は 6 年生まで可
  - また特別支援学校、特別支援学級に通う児童は 6 年生まで通年入所可〉
- (3) 育成時間：学校下校時～19:00、学校休業時 8:00～19:00
- (4) 学年別状況（2020 年 4 月 1 日在籍児数）※途中入所 2 名、途中退所 21 名、夏入所 2 名

学年	人数
1 年生	36 名
2 年生	22 名
3 年生	12 名
4 年生	4 名
5 年生	1 名
計	75 名

- (5) 在籍児童状況
  - \* 要配慮児：18 名
  - \* アレルギー児：3 名
  - \* モアサービス利用者：4 名(途中 3 名増)

### 2. 職員状況

- (1) 正職員（2020 年 4 月 1 日現在）

職種	施設長	支援員
人数	1 名	3 名

\* 11 月 1 日付けで 1 名採用

- (2) 正職員状況

- \* 新規採用者            支援員 2 名（うち 1 名は 11 月採用）
- \* 異動者                貝取学童クラブから 1 名、永山学童クラブから 1 名、  
こぐま保育園から 1 名

- (3) 有期契約職員（12 名）

契約 時間	6H×週 5 日	5.5H× 週 5 日	4.5H× 週 5 日	4.5H× 週 4 日	4H×週 4 日	5H×週 3 日	4H×週 3 日	3.5H× 週 3 日	6H×週 2 日	5H× 週 2 日
人数	1 名	1 名	1 名	2 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	2 名

#### (4) 職員研修：別紙参照

新型コロナウイルス感染症の流行により、研修の多くが中止、あるいはリモート開催となった。

### 2. 新型コロナウイルス感染症対策報告

- ・5月に職員が他の疾病により入院の際 PCR 検査受検。結果は陰性。
  - ・児童1名が濃厚接触者に指定されたため PCR 検査受検。結果は陰性。
  - ・2月に職員が濃厚接触者に指定されたため PCR 検査受検。結果は陰性。
- 当該職員と接触した職員15名が民間の PCR 検査を受検。全員陰性。

### 3. 2020年度に取り組んだこと

#### (1) 子どもたちとの関係作り

公設公営であった豊ヶ丘学童クラブから貝取小学校内に移転と同時に多摩市より当法人が運営委託を受け、正職員はすべて市の職員から入れ替わることとなったが、豊ヶ丘学童クラブの臨時職員6名が引き続き貝取小学学童クラブで有期契約職員として採用されたことは子どもたちの安心に繋がったようだった。

貝取小学学童クラブは新型コロナウイルス感染拡大が心配されるなかでの開所となったが、4月1日の出席は70名中49名、2日が50名と多くの子どもたちが登所したことは嬉しいことだった。感染拡大防止の観点からは歓迎できない状況だったかも知れないが、新しい施設への期待を感じることができた。

4月7日には緊急事態宣言が発出され小学校は休校となり、学童クラブは朝8時半から開所することとなったが、子どもたちとの関係がほとんどできていない中で、登所自粛のお願いをする苦しい状況が続いた。

マスクの着用もままならない子どもたちを感染から守らなければならない重圧もあった。また1年生は学校での生活を経験することなく学童クラブに来ていたので毎日1時間ほどの学習時間の過ごし方に悩み、1年生は家庭で学習をしている子と全くしていない子との差が大きく、小学校から課題が与えられても問題の意味もわからない状態の子もいた。支援員は学習指導をしないことになっているが、そうも言っておられず、多少の手助けをせざるを得なかった。

行事らしい行事もできず、新入生歓迎会、4月の誕生会、保護者会は中止した。出席者も日を追う毎に減っていったが、コロナ禍でも学童クラブに来なければならない子どもたちにとって学童クラブが楽しい場になるよう、日常の中で工作や簡単な行事をするなどして、できる範囲で充実した時間を過ごせるよう配慮した。

20名前後の出席が続き、ゆったりと過ごせたことは一部の子どもとではあるが、関係を作っていく上ではよい時間になった。

徐々に規制が緩和され、夏以降は通常の学童クラブの生活が戻り、そこから始まった子どもとの関係もあった。少し時間はかかってしまったが、「この学童は楽しい!」「毎日学童に行きたい」という声がたくさん聞かれるようになり、子どもたちと職員との関係がしっかり

と構築されてきたと感ずることができた。

## (2) 小学校分散登校時の育成

緊急事態宣言が解除され、6月から学校が再開し分散登校となった。1日のうちで半分の子が午前に登校し、半分の子が午後に登校した。午後3時を過ぎると午前組も午後組も学童クラブに集合することになった。蜜を防げと言われても防ぎようがなく、学校が分散登校しても学童クラブで1か所に集められてしまう状況に感染症対策としての矛盾を感じながらの育成となった。

毎日子どもたちが時間差で登所して来るので、遊び時間、学習時間、おやつ時間など生活時間の組み立てが難しかった。

## (3) グループ育成開始

7月からグループ育成を開始した。当初から個別の支援を必要とする子が多く、丁寧な対応をしていかなければならないと考え、少人数で育成していく事が必要と感じていたが、直営学童クラブの育成ではまったく無かった考え方なので、実施するには少し時間を要した。

地域を主体にグループ分けを行ったが、子ども同士の関係を見極め、グループ替えなども躊躇なく行うこととした。職員はどこまで自由にグループの特徴を出してよいのか、開始直後は戸惑い、悩んだり、迷ったりしている様子が見られたが、次第にそれぞれの個性が出て「自分のグループ」という意識が芽生えてきたようだった。大まかなおやつ時間や帰りの会の時間などは全体で統一したが、内容や若干の流れの違いなどについては担当職員とグループの子どもたちで決めた。

豊ヶ丘学童クラブにいた職員にとってはそれまでの育成とまったく異なる育成となるので、有期契約職員はグループを固定せず、全員がフリーの形でスタートした。

1か月に1回の月案会議では要配慮児の様子を中心に活発な情報交換や意見交換を行い、担当グループ以外の様子も全員が把握できるよう努めた。

## (4) 夏休みの生活

休校が長かったため、夏休みは2週間と短かった。小学校の水泳指導は中止となり、プールにも入れなかった子どもたちのために毎日水遊びをして夏の暑さをしのいだ。職員も子どもも大はしゃぎをして楽しそうだった。

## (5) 室内整備

室内をロッカーで仕切り、4つの空間に分けた。「スポーツグループ」「レインボーグループ」「キメツグループ」と3つのグループの生活スペースと遊具のスペースを分けた。各グループのテーブルの配置などはそれぞれの担当が考えてレイアウトした。

小さな個室にはピアノとベッド、机と椅子を置き、個別対応ができる部屋とした。玄関と育成室の飾りつけは季節にあった装飾を心がけ迎えに来る保護者がホッとできるような空間作りを意識した。

#### (6) 校庭、玄関前の整備

玄関前は殺風景だったのでプランターに季節の花を植え、華やかにした。

校庭の整備も欠かさず、雨天後のブラシかけ、夏には水撒き、草むしりなどを行った。

#### (7) 工作・手芸など

毎日のように誰かしらが空き箱やチラシなどを使った工作をしていた。ハロウィンの時などは職員がコスプレ用に猫の耳を作っていると、たくさんの子が寄ってきて手伝ってくれた。あっという間に人数分作ることができ、子どもたちの力が育っていることを感じることもできた。作った猫の耳を嬉しそうに頭に着け、そのまま帰る子もいた。

また大きな作品を作り、持って帰るのが大変そうな子もいた。どの子も保護者に見せたいと迎えに来るのを待ちかねていた。保護者はみな一様に「すごいね」「よくできたね」とほめてあげるので、子どもたちはまたさらにながら工作に励みどんどん腕を上げていった。

### 4. 地域・学校・専門機関との連携について

小学校とは日々連絡を取り合い、小さなことでも伝えあってきた。学校内の学童クラブとして、どのように関係を作っていったらよいか戸惑ったこともあったが、子どもを真ん中に考えあうことが何より大切であり、学校と同じ方向を見て情報を共有できたことがとてもよかった。

学校と保護者の依頼により不登校の子を放課後の時間帯に預かった。事案によって学校と共に判断して協力し合うことができた。

青少協会に職員が交代で出席し、情報交換を行った。

子ども家庭支援センター、発達支援室とは必要に応じて連絡を取り合った。ケース会議が3回行われ出席した。

### 5. 保護者との関係について

お迎えに来る保護者以外なかなか会うことができなかった。保護者会としては夏休み説明会を感染症対策のため3回に分けて開催した。春と秋の保護者会は開催しなかった。秋は冬の降所時間を決定するため、アンケート方式で保護者の意向を確認した。

個人面談はほぼ全員行うことができたが、保護者同士のつながりを作ることができず、豊ヶ丘学童クラブが委託となるときに父母会が解散してしまったことは非常に残念なことだった。当時の会長と何回か話す機会があり、父母会の必要性について意見交換をしたが、委託のタイミングでひとまず解散する、貝取小学童クラブになって新たに父母会を作るかどうか検討する、という結論を出し、保護者が一堂に会する機会がないまま1年が過ぎてしまった。次年度も同様の状況が続いた場合には方法を工夫して保護者が意見を交わせるような機会を作っていきたい。

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言発令後、出席人数は20名前後になった。</li> <li>・豊ヶ丘学童クラブに在籍していた子ども達は新しい学童クラブにうれしい気持ちと同時に今までと違う環境に戸惑う様子もあり、前の学童クラブの職員がいることで安心している子もいた。</li> <li>・新1年生は兄妹関係でつながりがあるなど慣れるのがとても早く楽しそうに遊ぶ姿が見られた。</li> <li>・外遊びでは校庭でサッカーや野球、滑り台、ジャングルジムなどで沢山体を動かして遊んでいた。室内では新しいおもちゃの「ドラえもん」のところがスイッチで遊ぶ子がたくさんいた。</li> <li>・雨の日には学校の体育館を使わせてもらいドッジボールを楽しんだ。</li> <li>・新型コロナウイルス感染対策として、勉強時間や昼食時には1班に1～2人で間隔をあけて全員同方向を向くように座らせていた。また、手洗いうがい、消毒の徹底、マスクをつけてくるように声掛けを行っていたが、遊びの中密になっていてもマスクを外してしまう子が多くいた。</li> </ul>	17日(金) 避難訓練	1年女子1名退所
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言発令以降の出席人数は20名～30名だった。</li> <li>・休校が続く中、三密を避けるためできるだけ接近・密集しないようバスケットボールやボードゲームなど新しい遊具を増やすことで遊びの分散化を図った。</li> <li>・外遊びでは貝取小学校の校庭でバスケットボールやサッカー、鬼ごっこで体を動かし、室内では新しいおもちゃ「ウボンゴ」などカードゲームで遊び雨の日には学校の体育館を使わせてもらいドッジボールやバスケットボール、鬼ごっこを楽しむことができた。</li> </ul>	20日(水) 誕生会	2年女子1名、4年生女子1名入所
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月から時間差登校が始まり、自粛期間中も50名前後の出席が続いた。午後から登校する子で朝から学童クラブを利用する子も多く、送り出しの確認や整列などで人手が必要だった。</li> <li>・子どもの出席が増え、おもちゃを巡るトラブルが多くなったこともあり、ブロックや1人で遊べるパズルのおもちゃを増やした。また、夕延長の時間もパズルで遊べるようになり、延長時間の騒がしさが少なくなった。</li> <li>・人数が増えたことで一斉おやつは子どもは取れなくなったのでレストランおやつを始めたが、隣の子と距離を取ることやおしゃべりせず食べることを徹底することが難しかった。</li> </ul>	15日(水) 避難訓練(地震)	1年生女子3名退所 コロナの影響で仕事が変ったなどの理由
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨の時期には小学校の体育館を使って遊ぶことができた。体育館では鬼ごっこやドッジボールで楽しそうに遊び、たくさん体を動かすことができた。</li> <li>・漫画を増やしたため、お部屋ではゆっくり読んでいる子どもの姿が見られた。</li> <li>・雨で外へ行けない時もあり、3密を避けるために新しい遊具の「カロム」を購入した。3、4年生の子どもたちはとても楽しかったようで1日中遊んでいる子もいた。</li> <li>・中旬からは降所グループを3つに分けて育成を行った。子どもたちも最初はロッカーの位置が変わっていたのに驚いている姿もあったが、掃りの会は全体で行うよりもスムーズに行うことができた。素直に受け入れられた子が多かった。</li> <li>・おやつ時間に蜜を避けることが難しくなったので新型コロナウイルス感染防止対策として卓上シールドを導入した。シールドがあることで「これで安心しておやつが食べられるね」と言う子がいた。子どもたちにも感染防止の意識があり、がんばっているのだと感じた。</li> </ul>	1日(水)～10日(金) プラ板工作 22日(水) 誕生会 29日(水) 防犯教室 17日(金)、22日(水)、31日(金) 地区別保護者会	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年の夏休みは1学期の長期休校の影響で8月8日～22日と例年よりも短かった。</li> <li>・緊急事態宣言解除後の保護者の仕事再開を受け、着実に出席人数が戻りつつある。</li> <li>・日陰でソーシャルディスタンスに配慮しつつ水鉄砲を使った水遊びを行った。</li> <li>・室内では7月に導入したカロムや人生ゲームなど、時間をかけてじっくり友達と遊ぶ時間を楽しんだり、1年生の間では塗り絵や写し絵を書き溜めて冊子を作ったりするなど、思い思いの遊び方を楽しむ様子が見られた。</li> <li>・7月に始めたグループ制の育成によって、集団降所の時間に一斉に子どもたちが玄関に集まらないよう時間差で集団降所をする児童の確認ができるようになった。</li> </ul>	13日～21日 水遊び 14日～31日 夏休み工作週間(ジェルキャンドル作り) 26日(水) 誕生会 27日(木) 交通安全教室	夏入所4年2名入所 1年生男子1名、女子1名 4年女子3名退所、うち1名は引越、2名は求職要件の期限切れのため
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学童から「ポケモンカード」を譲ってもらい、雨の日おもちゃとして出し始めた。3年生を中心に遊びのルールを教えると、子どもたちの方から自主的に1年生へルールを教える姿があった。雨の日を楽しみにしている子もいて、子どもたちも喜んでいただけた。</li> <li>・遊び中の言葉遣いが気になったり、ルール決めの場面でトラブルになることがあったため「遊び方講座」を行った。職員が撮影した映像をみて子どもたちにどうすれば良かったのか振り返ってもらいその時の発言を模造紙に書いて壁に貼らした。</li> </ul>	9日(水) 引き渡し訓練 23日(水) 誕生会 30日(水) 遊び方講座	4年生女子1名退所

	子どもたち・遊びの様子	行事	その他特記事項
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びでは元気よく鬼ごっこやサッカー、鉄棒、雲梯をして遊んでいる姿がよく見られた。上級生がいない中でも遊びの前に自分たちで遊び方を決める姿があり、成長を感じることができた。</li> <li>・室内では3年生が帽子やステッキを作っていた。それを見た低学年がマネをしたり、可愛い猫耳を工作したりする子もいて職員にプレゼントしていた。</li> <li>・3～5年は初めてのお店屋さんの準備を行った。段ボールで受付のカウンターを作ったり、オリジナルの立て看板をつくっていた。みんなで頑張って準備をしてきたお店屋さんはとても楽しい時間となり大成功となった。</li> <li>・10月26日(月)から冬時間降所が始まった。学童クラブでは「ほうかごあんしんノート」を使って1年生には「かえりかた講座」、2～5年生には「おるすばん講座」の内容で安全教室を行った。「ほうかごあんしんノート」は事前に保護者の方と考慮して記入をしてきてもらった。講座が終わった後は各自ランドセルにしまってお持ち帰るように話をした。</li> </ul>	<p>21日(水) お店屋さん</p> <p>23日(水) お留守番講座</p> <p>26日(月) 冬時間降所開始</p> <p>28日(水) 医学生会</p>	4年生女子1名退所
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋らしく枯れ枝で薪を組んで火おこしの真似をして遊ぶ姿が見られた。</li> <li>・室内では毛糸をつかって指あみをする子や、興味をもった遊びにじっくり取り組む子が多かった。</li> <li>・外での遊びではドッチボールが人気となり、楽しそうな様子を見て「入れて」と言いに来る1年生も増えた。</li> <li>・大縄跳びの縄を使った「いろはにこんべいとう」で学年性別を問わず一緒に遊ぶ姿が見られ、遊びを通じた交友関係の広がりを感ずることができた。</li> <li>・冬時間降所が始まり、変更された時間がしっかり定着している様子だった。</li> </ul>	<p>4日(水) 歯科指導</p> <p>20日(金) 避難訓練</p> <p>21日(土) 3年生遠足保護者説明会</p> <p>25日(水) 医学生会</p>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドッチボールが流行していた。学年を問わず一緒に楽しむ姿もあり、多いときには20名を超える子どもたちが一つのコートで遊んでいた。</li> <li>・12月の中旬からは室内で過ごす時間が多かった。坊主めくりやあやとりなど室内で遊べる道具が人気で多くの子が取り組んでいた。</li> <li>・3年生の子から「縄跳びの練習カードを作ってみんなに配りたい」という提案があった。職員と一緒に項目やチェック方法を考え、全学年にカードを配布すると3年生が中心となって縄跳び検定が始まった。</li> </ul>	<p>1日(火)～11日(金) 冬の工作(アイロンビーズ)</p> <p>9日(水) 防犯訓練</p> <p>12日(土) 3年生遠足</p> <p>23日(水) お楽しみ会</p> <p>24日(木) 昼食会</p> <p>25日(金) 大掃除</p>	1年生女子1名、2年生女子1名退所。1名は転居のため
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けん玉やお手玉など、昔遊びに触れる機会を増やそうと『むかしあそびチャレンジカード』を作成し、子どもたちに配布した。いくつか達成項目を作成し、できた際に職員からシールをもらえるということを子どもたちに周知すると多くの子が昔遊びに親しんでいた。</li> <li>・降所時間が通常に戻り、遊びの時間が10分ほど長くなったことで子どもたちも満足そうに遊んでいた。</li> </ul>	<p>13日(水) 避難訓練</p> <p>20日(水) 医学生会</p>	1年生男子1名、女子2名 2年生女子2名 4年生男子1名退所。 1名は転居、2名はコロナのため退所。
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・晴天が続き、たくさん外で遊ぶことができた。子どもたちはドッチボール、サッカー、おにごっこを大勢で楽しんでた。学年に関わらず異年齢の交流が遊びを通して自然に行われる様子がみられた。</li> <li>・乾燥した空気の日が多かったため室内でも水分補給を欠かさないうよう子どもたちに声掛けをして過ごした。</li> <li>・2月中旬より各グループごとに、2年生が次年度のリーダーとしての意識をもって行動する準備として、帰りの会や降所グループのまとめ役を3年生から引継いだ。</li> <li>・緊急事態宣言中だったためか、出席児童数は40～50名程度の日が多かった。</li> </ul>	<p>24日(水) 医学生会</p> <p>26日(金) 避難訓練</p>	1年生女子2名退所
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級を祝う会の際、全学年でドロケイをしたことで1、2年生を中心にドロケイのブームが起こり、多くの子が遊んでいた。追いかける方も逃げる方も作戦を立てて駆け引きを楽しんでいるようだった。</li> <li>・例年より桜が咲くのが早く、子どもたちから「お花見したいな～」という声が上がった。天気の良い日に施設周辺でマットやすのこ部分を使いながら屋外で昼食を食べた。</li> <li>・進級お祝い会を行い、3年生は証書の授与や思い出の発表など主役として振る舞う最後の行事となった。1、2年生たちにとっても進級を意識する機会となったようだった。</li> <li>・月の最後には1、2年生がそれぞれ集まり、「新1年生が学童クラブへ来たらどうやって迎え入れてあげようか」という内容で学年会議を行った。</li> </ul>	<p>12日(金) 防災訓練</p> <p>17日(水) 進級を祝う会。</p> <p>24日(水) 医学生会</p>	



2020年度 貝取小学童クラブ 参加研修一覧

正職員									
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	自主研修対象	備考
1	施設長	東京都医療的ケア児支援者育成研修	東京都	オンライン	2/12~3/5	医療的ケア児支援の特徴、必要な概念、成長と発達の特徴	×	×	
2	支援員	東京都医療的ケア児支援者育成研修	東京都	オンライン	2/12~3/6	医療的ケア児支援の特徴、必要な概念、成長と発達の特徴	×	×	
3	支援員	東京都医療的ケア児支援者育成研修	東京都	オンライン	2/12~3/7	医療的ケア児支援の特徴、必要な概念、成長と発達の特徴	×	×	
4	支援員	東京都医療的ケア児支援者育成研修	東京都	オンライン	2/12~3/8	医療的ケア児支援の特徴、必要な概念、成長と発達の特徴	×	×	
5	支援員	東京都医療的ケア児支援者育成研修	東京都	オンライン	2/12~3/9	医療的ケア児支援の特徴、必要な概念、成長と発達の特徴	×	×	
6	支援員	救命救急講習	多摩市	愛宕児童館	9月4日	普通救命、AED操作	×	×	
7	支援員	救命救急講習	多摩市	愛宕児童館	9月11日	普通救命、AED操作	×	×	
8	支援員	救命救急講習	多摩市	愛宕児童館	9月15日	普通救命、AED操作	×	×	
9	施設長	救命救急講習	多摩市	愛宕児童館	9月18日	普通救命、AED操作	×	×	

有期職員								
NO.	役職・クラス	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	自主研修対象	備考
1	有期契約職員	東京都放課後支援員認定資格研修	東京都	高田馬場 ワイルド会議室	7/7~7/16	放課後児童支援員認定資格取得のための研修	×	
2	有期契約職員	東京都放課後支援員認定資格研修	東京都	昭和大学 世田谷キャンパス	9/3~9/8	放課後児童支援員認定資格取得のための研修	×	
3	有期契約職員	東京都放課後支援員認定資格研修	東京都	ルミエール府中	11/25~12/3	放課後児童支援員認定資格取得のための研修	×	
4	有期契約職員	東京都放課後支援員認定資格研修	東京都	ルミエール府中	11/25~12/4	放課後児童支援員認定資格取得のための研修	×	

学童クラブ全体の研修他								
NO.	研修名	主催者	場所	日程	テーマ・分科会名	キャリアパス該当	対象者	備考
1	学童担当者研修	多摩市	職員自宅 (在宅勤務)	5月11日	多摩市学童クラブ育成支援要領について		新入職員	
2	学童担当者研修	多摩市	職員自宅 (在宅勤務)	5月12日	職員のこころがまえ、個人情報、保護者対応、1日の流れ		新入職員	
3	新人研修	多摩福祉会	オンライン	6月27日	法人理念と職場理解		新入職員	施設長参加
4	カラム研修	貝取小学童クラブ	貝取小学童クラブ	7月14日	講師によるカラムの指導		全職員	
5	多摩福祉会合同研究集会	多摩福祉会	オンライン	11月7日	つながり		全職員	
6	多摩福祉会合同研究集会	多摩福祉会	貝取小学童クラブ	11月10日	分科会		全職員	
7	アレルギー勉強会	貝取小学童クラブ	貝取小学童クラブ	2月~3月	アレルギー児の対応についての勉強会		正職員	